

RACING S 125 シリーズ

SCOOTER

取扱説明書



はじめに

オーナーの皆さまへ：

この度は KYMCO RACING S 125 シリーズをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本マニュアルでは KYMCO RACING S 125 シリーズを末永く安全にご使用いただくための、正しい使用方法やメンテナンス調整方法について詳しく説明しております。

本車種は環境保護による排ガス基準をクリアし、低汚染、低騒音、省エネという環境保護要求を満たしていますが、定期メンテナンスをおこなっていただいてこそ最高の性能を維持することができます。

お客様の安全、より快適な運転のために、本マニュアルを詳しくお読みいただくようお願い申し上げます。

本マニュアルの内容と実車との間に相違がある場合、実車の形式を基準とします。

重要なお知らせ

本マニュアル内の特に重要なお知らせは、以下のマークで区別してあります。

ご注意

これは「安全警告」マークです。このマーク内の説明はお客様に傷害をもたらす恐れがあります。傷害や死亡事故が起こることのないよう、このマーク内の全ての安全情報説明を必ずお守りください。

警告

これは「警告」マークです。このマーク内の説明は、危険な状況があることを知らせています。この危険な状況を回避しない場合、死亡または深刻な傷害が起きる場合があります。

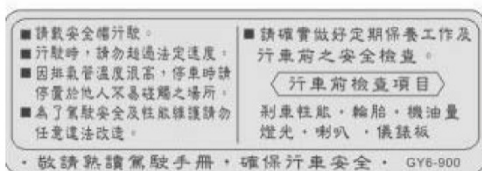
ご注意

これは「注意」マークです。スクーターまたは金銭的な損害が発生しないよう、このマーク内の説明の予防措置については必ずお守りください。

*製品および各仕様に変更があった場合、別途通知はいたしません。

重要なシールと標示位置

お客様がお買いになったスクーターの各標示またはシールの内容をお読みいただきご理解ください。それらにはスクーターの安全かつ正確な操作等の重要な情報が含まれていますので、はがさないようにし、シールが見にくくなったり読めなくなった場合は新しいシールに交換してください。



⚠ 安全についてのお知らせ

責任あるライダーとして

一人の責任ある運転者として、お客様には安全かつ正確にスクーターにお乗りいただく義務があります。スクーターは二輪車ですので、安全な使用と操作は運転者の正確な乗車技術と専門知識によります。従ってどの運転者もスクーターにお乗りになる前に下記の内容について必ずご理解ください。

1. スクーターの各操作方法について完全に理解すること。
2. 取扱説明書に記載の各警告、注意および規定を理解すること。
3. 安全かつ正確な乗車方法と技能を備えていること。
4. 取扱説明書に記載の専門知識を理解しているか、修理をおこなう技術者はメンテナンス、修理に必要な教育を受けていること。
5. 政府機関が発行したスクーターの免許証を所持し、かつ交通安全法規、基準を確実に守ること。

安全な乗車

本スクーターをご利用になる前には必ず乗車前の検査をおこない、スクーターの安全な運転を心がけてください。正確な検査およびメンテナンスを怠りますと、事故の発生や部品の損壊を招く恐れがあります。乗車前の検査一覧表については7-2ページをご参照ください。

1. 本スクーターは運転者および1名の同乗者用のみ設計されています。
2. 道路での運転中、自動車の運転手は往々にしてスクーターの運転状況を見落とす場合があります、これがスクーターと自動車の事故発生の主な原因となっています。事故の多くは自動車の運転手からスクーターが見えないことによるもので、スクーターに乗る際にいかにして目立つかが、これら

の事故を防ぐ最も効果的な方法となります。したがって、

- 明るい色の上着を着用してください(保護用ウェアの着用をお勧めします)
 - 交差点はスクーターの事故が最も起きやすい場所です。交差点への接近および通過中は特にご注意ください。
 - 自動車の運転手から見やすい場所を走行するとともに、別の運転手の盲点にならないようにしてください。
3. 多くの事故は経験のない運転者が引き起こすもので、実際に事故を起こした運転者の多くが無免許運転です。したがって、
 - 有効な運転免許証を所持していなければならず、また運転免許所持者にのみスクーターを貸すことができます。
 - ご自身の技術と能力の限界を理解し、車両の安全限度を超えることなく、事故発生防止に努めてください。
 - スクーターおよび全ての操作を完全に習得するまで、他の車両の通行がない場所で乗車練習をするようお勧めします。
 4. 事故の多くは運転者の誤った操作が原因で、代表的なものとしてはスピードオーバー、または方向転換時の角度不足の状態での急カーブを曲がる際に発生するものがあげられます(スピードとスクーターの傾斜角度は一致しません)。
 - 定められた制限速度を超えないようにしてください。
 - 方向転換または車線を変更する際は必ずウインカーを使用し、他の車やバイクの運転手に分かるようにしてください。

⚠ 安全についてのお知らせ

5. 運転者および同乗者の姿勢は、正確にコントロールする上での重要な要素です。
 - 運転者は、乗車時はハンドルをしっかり握り、両足は足踏台に置き、スクーターの安定した操作を確保します。
 - 同乗者は両手で運転者または後方の取っ手(装備されている場合)をしっかりつかみ、両足は同乗者用の足踏台(ステップ)に置きます。
 - 同乗者の両足が確実に同乗者用の足踏台(ステップ)に置けない場合、同乗者を乗せることはできません。
6. 飲酒または薬を服用した場合、スクーターの運転は厳禁とし、また飲酒または薬を服用した人にスクーターを貸してはいけません。
7. 本スクーターは一般道路での運転用に設計されており、道路以外の路面では使用できません。

保護装備

スクーターの死亡事故の中では頭部に損傷を受ける場合が多く、ヘルメットは事故の際、頭部の損傷を防止、軽減させる重要な装備です。

1. 常に認証に合格したヘルメットを正しくかぶってください。
2. ゴーグル、マスクを着用しない場合、風からの眼の保護ができず、視覚遅延や眼が見えないなどの危険な状況を招く場合があります。
3. ジャケット、靴、長ズボン、手袋等は擦り傷や裂傷の防止に効果的ですので、確実に身に着けるようにしてください。
4. 緩い衣服やロングスカート、ロングスカーフはスクーターの運転中やすれ違い、牽引の際にハンドル、足踏台、車輪、マフラー等に絡みつき、けがや事故の元になりますので、着用しないようにしてください。

5. スクーターは一定時間運転するとエンジンやマフラーが熱くなり火傷をする恐れがあるので、運転者の足や足首の関節を保護してください。
6. 同乗者も前述の各注意事項にご注意ください。

有毒な一酸化炭素からの保護

エンジンは死に至らしめる一酸化炭素を排出します。多量の一酸化炭素を吸引すると頭痛、目まい、倦怠感、吐き気、混乱を引き起こし死に至る場合があります。一酸化炭素は無色、無味の気体です。エンジンの排気は目に見えず、また匂いもしませんが、確実に存在し、多量に吸引すると急速に蓄積し自分では処置できなくなります。一酸化炭素は密室や風通しの悪い場所では数時間から数日残留しますので、一酸化炭素中毒の現象が発生した場合は直ちにその場を離れ新鮮な空気を吸い、医師の治療を受けてください。

1. 一酸化炭素は急速に致死量に達するので、ファンを使用したり窓を開けたりしてエンジンの排気を排出する際は室内のエンジンを止めてください。
2. 倉庫、車庫あるいは天井はあるが壁がない小屋等の風通しが悪く密閉された空間ではスクーターの運転をしないでください。
3. 一酸化炭素はドアから室内に入り、一酸化炭素中毒を引き起こす恐れがあるので、ドアに近い室外ではエンジンを始動しないでください。

負荷

スクーターの重量分配を変えたり付属品や貨物を追加した場合、安定性と操作性に深刻な影響を与える場合があります。事故発生を防ぐため、付属品や貨物を追加する際は特にご注意ください。すでに付属品や貨物を追加したスクーターに乗る際は、以下の付属品や貨物に関するお知らせに特にご注意ください。

⚠ 安全についてのお知らせ

以下の事項を必ずお守りください。

運転者、同乗者、付属品および貨物の重量は、重量超過による事故発生を防ぐため、各規定の積載制限を超えないようにしてください。

スクーターの負荷が各規定の重量制限内の場合、下記の事項にご注意ください。

1. 貨物および付属品を積み際はできるだけ低くスクーターに近づけてください。不均衡および不安定を減らすため、重い物はできるだけスクーターの中心に近づけ、重量がスクーターの左右に均等に分散するようにしっかり固定してください。
2. 運転中、物品が移動し突然不均衡、不安定になる場合があります。スクーターに乗る前には付属品または貨物は必ずスクーターにしっかり固定してください。
 - 積載状況に適したサスペンションシステムの調整(調整可能式サスペンションシステム採用車種のみ)、車輪およびタイヤ空気圧を検査します。
 - ハンドルに物を掛けたり、泥除けに大型または重い物を取り付けしないでください。これらの物はスクーターを不安定にし、方向転換時の反応を遅くします。
3. 本スクーターは設計上荷物車やサイドカーを取り付けることはできません。

KYMCО 純正部品

スクーター部品の選択は大変重要です。KYMCО 純正部品(KYMCО 正規販売店にて購入可能)は全て KYMCО 認定による設計とテストをクリアしており、スクーターに取り付けることができます。

多くの KYMCО と関連のない会社が製造した部品について、KYMCО はこれらの製品のテストをおこなっていません。よって

KYMCО ではこれらの製品が KYMCО が製造販売した製品かどうか判断できず、たとえ KYMCО の純正部品でなくても KYMCО 正規販売店にて販売または取り付けをおこなっている場合があります。

補修部品および改造

ユーザーはおそらく製品のデザインや品質の多くが KYMCО 純正品に似ていることを発見すると思いますが、どうかこれらの製品にはユーザーや他人に危害を加える恐れがあることをご理解いただきたく思います。これらの製品を取り付けたり他の改造をおこないますと、スクーターの設計や操作性を変え、深刻なけがや死亡事故につながり、これらの改造による死傷事故についてはお客様が責任を負うことになります。どうか下記の説明をお読みいただきたくと思いますが、これらの説明も部品を取り付けた際の「負荷」を前提にしております。

1. スクーターの性能を低下させる部品や貨物は取り付けず、部品を使用する際はいかなる時でも地面からの高さや方向転換時の高さを低下させず、サスペンションシステムの行程や方向転換行程もしくは操作性能に影響を与えたり、ライトや反射板を遮ったりすることがないようにご注意ください。
 - ハンドルもしくはフロントフォークエリアに取り付ける部品は、重量のアンバランスや空気の流れを変え、不安定性を増すことになります。
 - ハンドルやフロントフォークエリアに部品を取り付ける際は、必ず軽量で小型の物を取り付けてください。大型部品は空気の流れの関係でスクーターの安定性に深刻な影響を与えます。また風力はスクーターを下から押し上げようとするので、横風が吹いた際は不安定になり、また大型車とすれ違う際はこれらの部品がスクーターを不安定にします。

⚠ 安全についてのお知らせ

- ある部品は運転者の乗車位置を変えます。この種の不正確な位置は運転者の移動行為や制御能力を制限するので、絶対にスクーターに取り付けられないでください。
- 2. 電気部品を取り付ける際は特にご注意ください。電気部品が本スクーター電気システムの負荷能力を超えた場合、スクーターの電気システムの故障を引き起こし、ライト類の故障またはエンジン能力の損失等の危険を引き起こす場合があります。

タイヤとホイールの修理

本スクーターのタイヤとホイールはスクーターが最高の性能を発揮するよう設計され、かつブレーキ操作および快適性が最良となるように組み合わせられており、他のタイヤ、ホイールのサイズや組み合わせは適切ではありません。

スクーターの輸送

他の車両でスクーターを輸送する際は、以下の事項にご注意ください。

- 脱落するおそれのあるスクーターの部品は全て取り外してください。
- スクーターを輸送車両上に確実に固定してください。固定する際は強固な専用ベルトでスクーターの強固な部位(例：フレーム、ハンドル、フロントフォークもしくは他の部位)をしぼり、弱い部位(例：外部の覆い、方向指示器または他のもろい部分)は輸送時の事故を防ぐため縛らないでください。

- ショックアブソーバは圧縮した位置で固定し、輸送時の過度な衝撃で弾けることがないようにしてください。

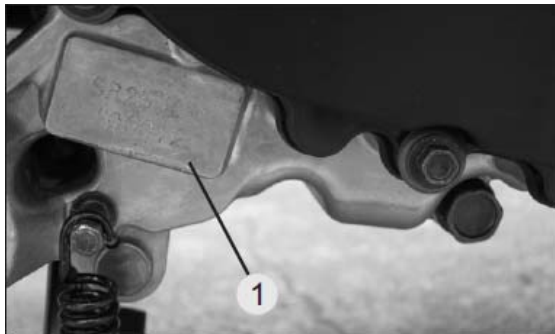
安全な乗車要点について再度申し上げます

- 方向転換する前はウインカーを使用してください。
- 滑りやすい路面ではブレーキの効きが悪くなり、スクーターが滑る恐れがあるので、急ブレーキは避け、停止する際は危険を避けるためゆっくりブレーキをかけてください。
- 曲がり道や交差点に近づく際は減速し、曲がり終えてからゆっくりと加速してください。
- 道端に停まっている車両を追い越す際は、運転手や乗客がスクーターに気付かず、突然ドアを開ける恐れがあるので注意してください。
- 湿った踏切や道路上の鉄板、マンホールは非常に滑りやすいので、速度を落として通り過ぎるようにし、転倒を防ぐためスクーターをまっすぐ立ててください。
- スクーターを洗車した後はブレーキパッドが湿っている場合があるので、乗車前に正常に作動するか検査してください。
- 乗車前に必ずヘルメットをかぶり、また手袋を着用し長ズボンをはいてください(裾は縛って風で揺らめかないようにしてください)
- スクーターには積載限度を超えた荷物を載せないこと。重量超過はスクーターを不安定にします。

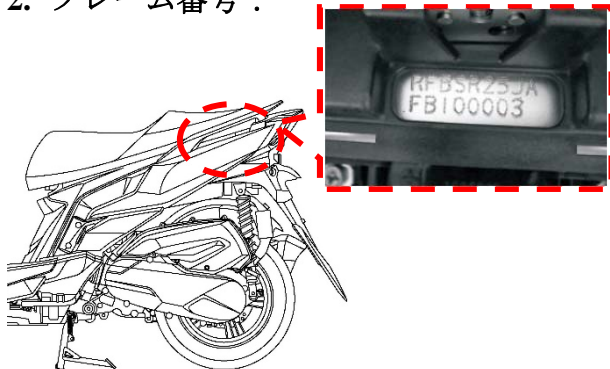
重要なお知らせ

車両識別番号情報

1. エンジン番号：



2. フレーム番号：



目次

1.安全運転についての注意事項	1
2.スクーター各部位の名称	2
3.メーターとコントローラーの機能 操作	3
4.エンジンの始動方法	4
5.正しい運転のしかた	5
6.乗る前の点検	6
7.定期的および簡単なメンテナンス、 故障修理	7
8.環境保護機構の紹介とメンテナ ンス	8
9.仕様書	9

1. 安全運転についての注意事項

1-1. 乗る前の点検

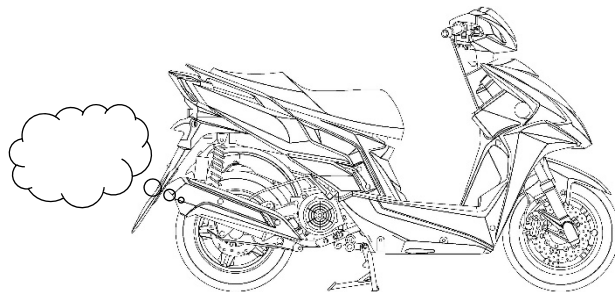
1-5. 服装

1-6. 積載物

1.安全運転についての注意事項

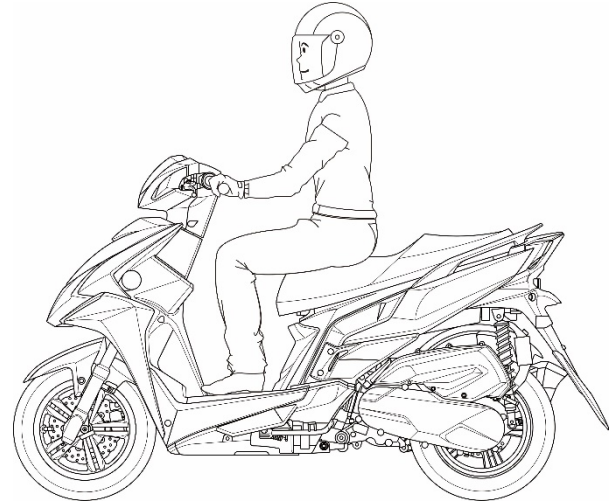
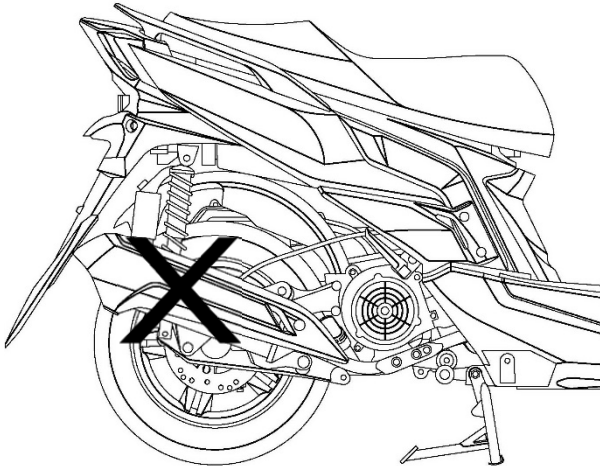
乗る前の点検

1. 使用マニュアルおよび注意事項の内容をよくお読みください。
2. 運転者は必ずヘルメットと手袋、ゴーグル等をおつけください。
3. 運転の安全を妨げる服装は着用しないでください(ロングスカート、パンタロン等)。
4. 袖口が開いているとブレーキレバーに引っ掛かり大変危険です。
5. ブレーキレバーの操作を妨げることをないようにしてください。
6. 日常および定期点検は必ずおこなってください。
7. タイヤの外側に異物の付着や異常な摩耗がないか目視してください。
8. マフラーから出る排ガスには一酸化炭素が含まれ人体に有害です。
9. エンジンを始動する際は風通しのよい場所でおこなってください。



1.安全運転についての注意事項

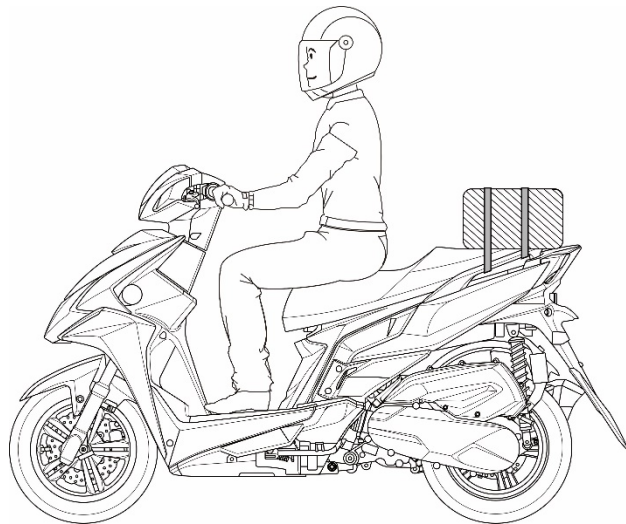
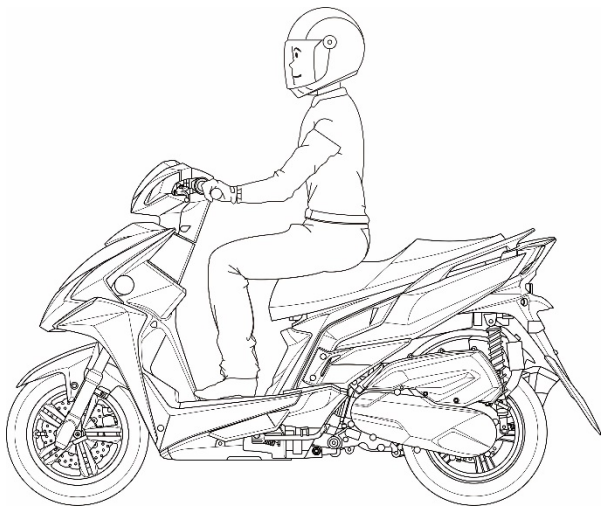
1. エンジンを止めた後のエンジン本体とマフラーは高温ですので触らないでください。
2. 万一のため停車する際は乾燥芝や可燃物から離してください。
3. エンジンを止めた後のマフラーは高温ですので、停車する際はマフラーを壁側か人のいない方向に向けてください。
4. 運転中はハンドルをしっかり握り、両足は足踏台に置いてください。同乗者は必ず両手を運転者の腰に回すか、グラブレールを握り、両足は同乗者用の足踏台に置いてください。
5. 同乗者が乗下車する際は火傷防止のためマフラーの温度にご注意ください。



高温のため触らないでください

1.安全運転についての注意事項

1. 急な方向転換や片手運転はおやめください。
2. 道路交通規則をお守りください。
3. 積載物がある場合とない場合ではハンドル操作の安全性に変化があります。
4. 積載物は重すぎないようにして必ず固定し、安全運転に十分お気をつけください。

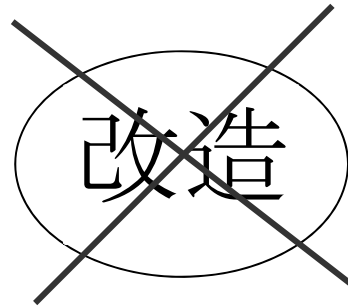


1.安全運転についての注意事項

1. 給油時は火気厳禁です。
2. 給油時はエンジンを止めてください。



3. 車の構造と機能は関係があり、任意の改造は操作性を悪化させ車の寿命や安全運転に影響を与えます。
4. 車の改造は法律で許可されておらず違法行為ですのでおやめください。
5. 車を改造しますと保証効力は失われます。



1.安全運転についての注意事項

⚠️ ご注意

- 気持ちをリラックスさせ、快適な服装を着ることが安全運転のコツです。
- 交通規則を守り、焦らず、リラックスし、安全運転を心がけてください。
- 危険発生防止のため、スクーターに乗る際は安全運転を妨げる服装(ロングスカート、パンタロン等)はお避けください。
- 運転中あるいは停止後 30 分以内はマフラーが熱くなっていますので、火傷防止のため触れないでください。
- 停車する際は万一のため乾燥芝や可燃物から離してください。
- 車両が別々の技術的な手が装備された後、あなたは自分自身と乗客の安全性に特別な注意を払うこと、等...、あなたの服やパンツにスカートをフックかもしれないが、車両が移動しているときにオフに注意したりしてください。(下記参照)



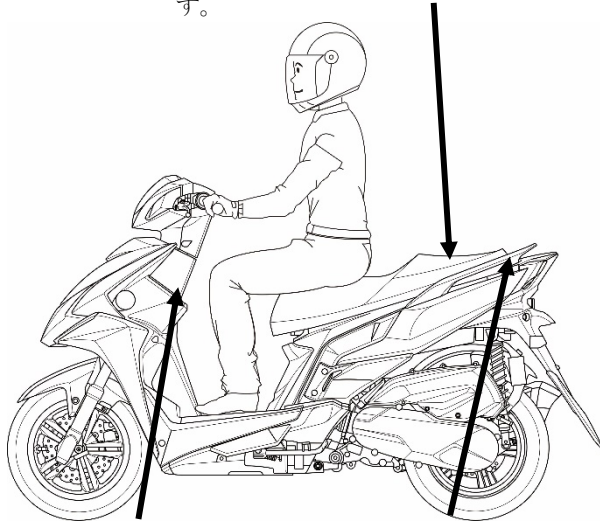
服装

- ブレーキレバーに引っ掛からないよう袖口はしっかり留めてください。
 - ヘルメット着用の際はベルトをしっかりと締めてください。
 - 片手運転は非常に危険ですので、運転中は両手でしっかりとハンドルを握ってください。
 - かかとの低い靴が比較的安全です。
-

1.安全運転についての注意事項

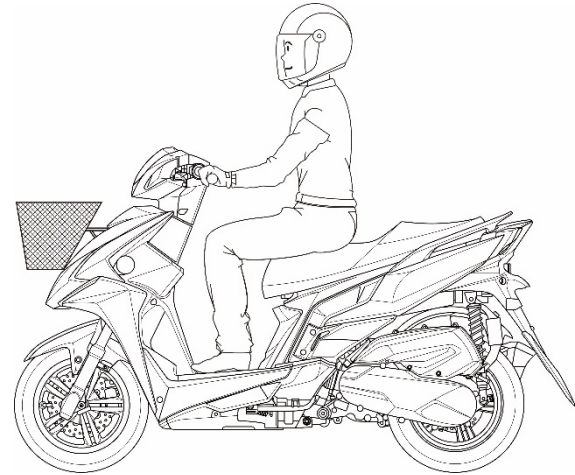
積載物

- シートボックスへの積載物は約 10kg です。



- 前部ボックスへの積載物は 1.5kg までです。
- 前後の物置スペースへの積載物は 5kg までです。

- 車の前部に物置かごやキャリアを取り付けしないでください。車の前部に取り付けますとヘッドライトが覆われ、安全運転に大きな影響を与えます。



2. スクーター各部分の名称

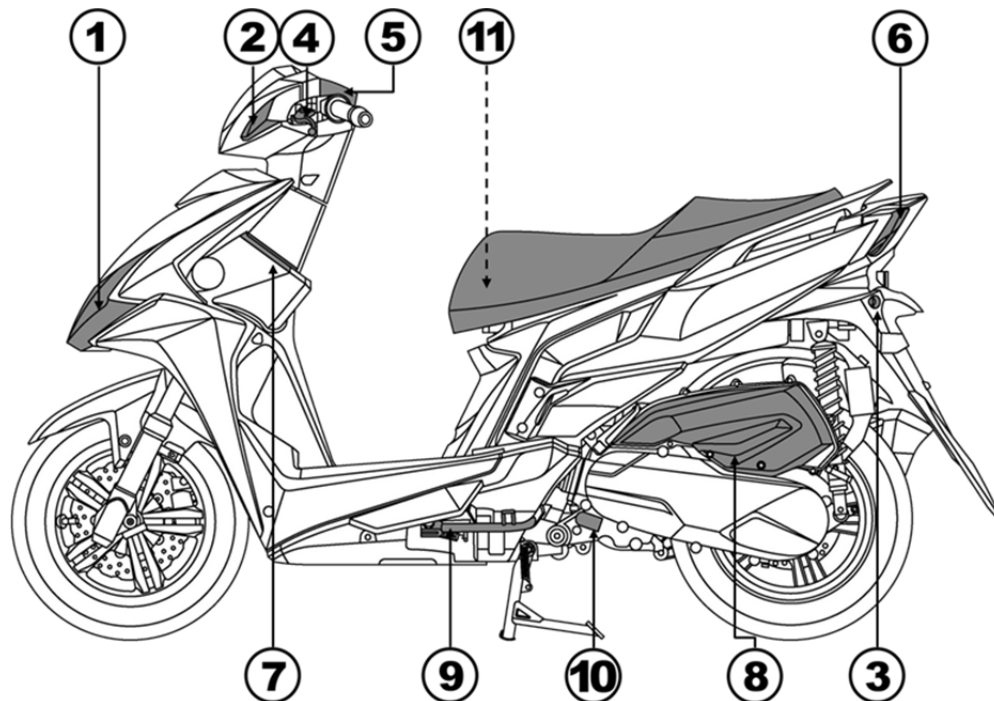
2-1. 左側から見た図

2-2. 右側から見た図

2.スクーター各部分の名称

左側から見た図

1. ヘッドライト
2. 左前方ウインカー
3. 左後方ウインカー
4. 後輪ブレーキレバー
5. ライトハイ・ロー
切換スイッチ/
ウインカースイッチ/
ホーンスイッチ
6. テールライト/ブレ
ーキランプ
7. ガソリン注入口
8. エアフィルター
9. サイドスタンド
10. エンジンナンバー
11. ヘルメットフック

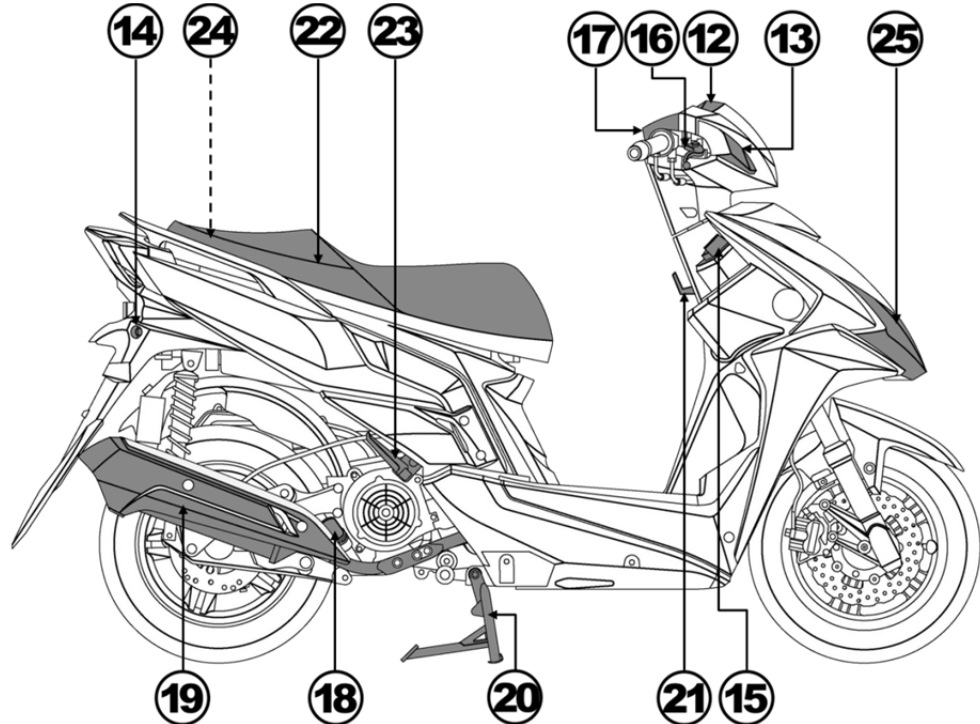


※お客様の愛車が写真のタイプと異なる場合がありますが、実際のタイプを基準とします。

2.スクーター各部分の名称

右側から見た図

- 12. メーター類
- 13. 右前方ウインカー
- 14. 右後方ウインカー
- 15. メインスイッチ
- 16. 前輪ブレーキレバー
- 17. エンジンストップスイッチ/セルスターター
- 18. オイルメーター
- 19. マフラー
- 20. メインスタンド
- 21. 中間フック
- 22. ヘルメットボックス
- 23. 同乗者用ペダル
- 24. フレーム番号
- 25. フロント左/右ポジションランプ(LED)



※お客様の愛車が写真のタイプと異なる場合がありますが、実際のタイプを基準とします。

3. メーターおよび各コントローラー機能の操作

3-1. メーター、指示ランプ類

3-4. メインスイッチカバーおよびキー

3-5. メインスイッチ

3-6. ハンドルロック

3-7. セルボタン、ヘッドライトスイッチ

3-8. ハイロービーム切換スイッチ、パッシングスイッチ

3-9. ウィンカースイッチ、ホーンボタン

3-10. ハンドブレーキの使用方法

3-11. シートボックス内の構成

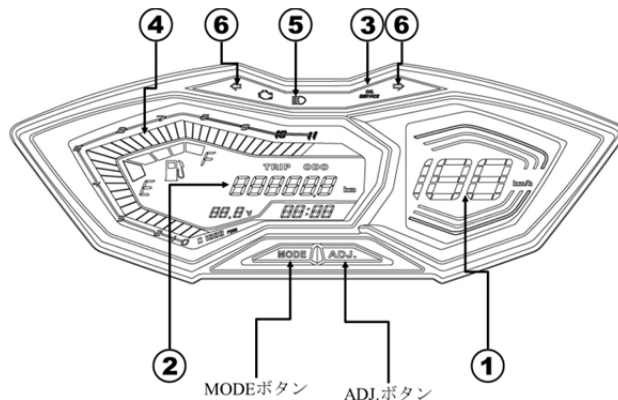
3-12. メインスイッチ脇の USB DC5V 充電コンセント

3-14. ABS アンチロックブレーキシステム

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

メーター

- 1 スピードメーター：**
運転速度をキロ/時間(km/h)で表示します。
- 2 積算距離計：**
総走行距離をキロ(km)で表示します。
*積算距離計のリセット：
1. ADJ.ボタンを 0.5 秒押すと ODO→TRIP→空白の 3 モードが順に変わります。
2. TRIP モードの時に ADJ.ボタンと MODE ボタンを押すとリセットします。
- 3 オイル交換指示ランプ：**
2000km 走行時に指示ランプが点灯し、オイル交換の必要を知らせます。
*オイル交換計のキロ表示のリセット
1. ADJ.ボタンを約 0.5 秒押すと ODO→TRIP→空白の 3 モードが順に変わります。
2. 空白(**Oil Service**)モードの時に ADJ.と MODE ボタンを同時に押すとリセットし指示ランプが消えます。
- 4 タコメーター(RPM)：**
エンジンの 1 分間当たりの回転数を数字×1000rpm で表示します。
- 5 ハイビーム指示ランプ：**
ヘッドライトがハイビームの位置にある時にこのランプが点灯します。
- 6 ウィンカー：**
ウィンカースイッチを操作した際に指示ランプが点滅します。



ご注意

- オイル交換指示ランプは運転 **2000km** ごとに点灯します。よって初回 300km でオイル交換する際には指示ランプは点灯しませんが、点灯しない場合でもリセットすると指示ランプは正確に作用します。

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

7 ガソリンメーターの表示：

ガソリタンク内のガソリンの量を表示します。指針がメーターの赤いエリアかE点に来たら、早めにレギュラー以上の無鉛ガソリンを補給してください(ポンプが空転すると損壊を招きます)。

8 時間：

1. ADJ.ボタンを0.5秒押すとODO→TRIP→空白の3モードが順に変わります。
2. ODOモードの時、ADJ.とMODEボタンを同時に押すと時間調整モードに変わります。
3. 時間調整モードの時、ADJ.ボタンを押すと時または分を調整でき、MODEボタンで時と分を切り替えます。
4. ADJ.とMODEボタンを同時に押すと調整MODEが解除されます。

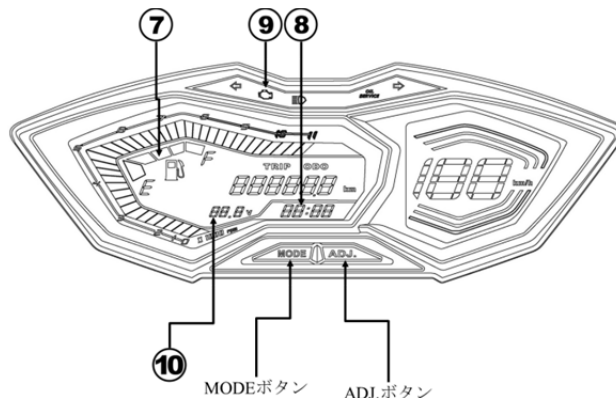
9 エンジン点検ランプ：

キーをONにしてエンジンを始動しない場合はLEDが点灯します。エンジンが始動した後、LEDは10秒以内に消灯します。LEDが点灯し続ける場合はお買い上げ頂いたKYMCO正規販売店へご相談の上、点検を受けて下さい。

10 バッテリー電圧表示：

メインスイッチをONにした時に10V以下の場合にはバッテリーに充電が必要です。
エンジン始動後、10V以下もしくは16V以上を表示した場合は充電システムの故障です。
お買い上げ頂いたKYMCO正規販売店にご相談下さ

い。



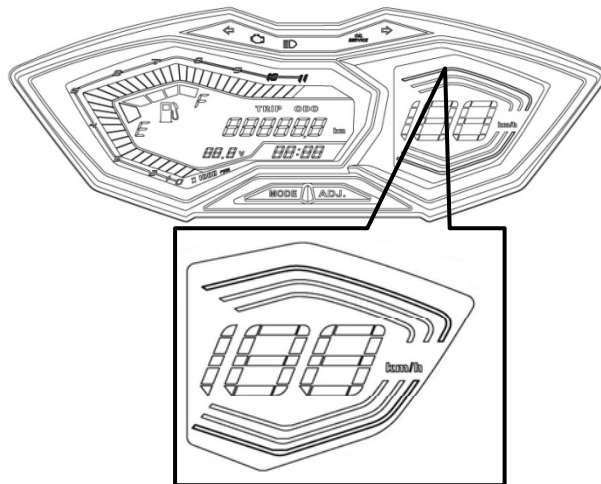
⚠️ ご注意

- ガソリンメーターがE点か赤いエリアに近づいたら、できるだけ早くレギュラー以上の無鉛ガソリンを補給してください。

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

⑪ 速度表示：

1. 1～60km/h：白色
2. 61～80km/h 白色+橙色
3. 81～100km/h（以上）：白色+橙色+赤色

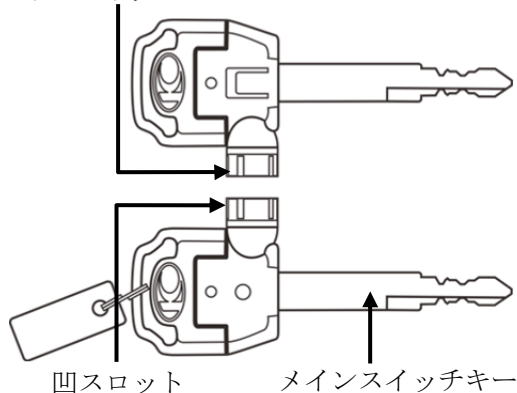


⑪

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

メインスイッチカバーおよび2in1キー メインスイッチカバー

メインスイッチカバーキー



⚠️ ご注意

- メインスイッチカバーキー(磁気スイッチ)を紛失した際はキーナンバーカードをご提示の上お買い上げの KYMCO 正規販売店にてお求めください。

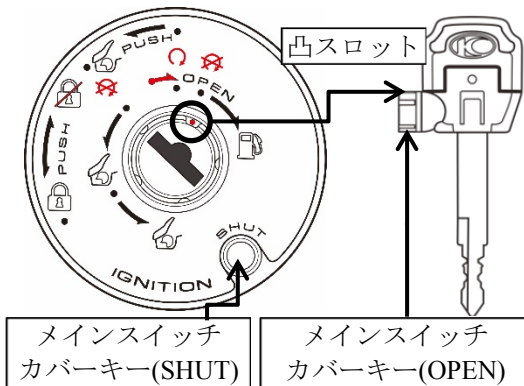
盗難防止のため、駐車時はメインスイッチカバーをロックしてください。

ロック方法：

メインスイッチカバーキーを下にしてロックします。

解除方法：

メインスイッチカバーキー凹スロットにメインスイッチカバーキーの凸スロットを差し右に回すとメインスイッチカバーが開きます。



3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

メインスイッチの位置



この位置にあるとき、ハンドルはロックされ、キーを抜き取ることができます。



この位置にある時、車の電源は全て切断され、キーを抜き取ることができます(エンジンはストップします)。



この位置にある時、車の電源は全て通じ、キーは抜き取ることができません(エンジンは始動できます)。

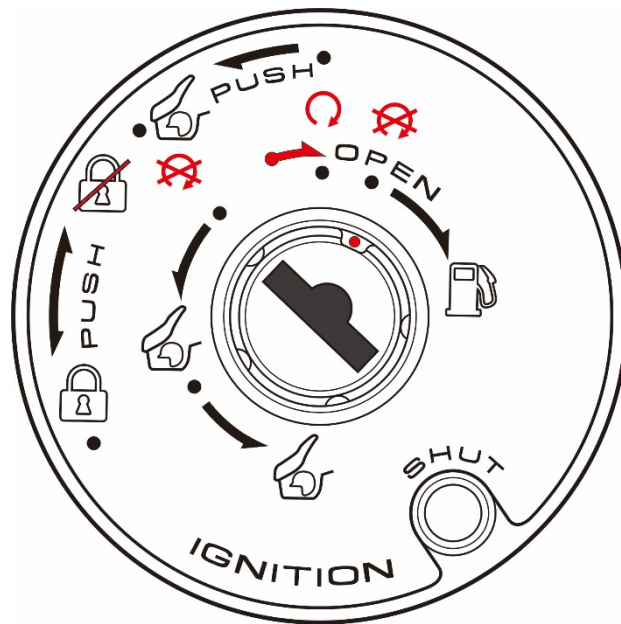


この位置にある時、燃料タンクのカバーが開き、キーは自動的に元の位置に戻ります。



シートボックスオープン

- この装置は次の3つの状態でシートボックスが開けられます。
(1)エンジンがストップしている時(2)エンジンが始動している時(3)ハンドルがロックされている時



警告


- 走行中は事故防止のためメインスイッチを または の位置にしないでください。

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作



ハンドルロック

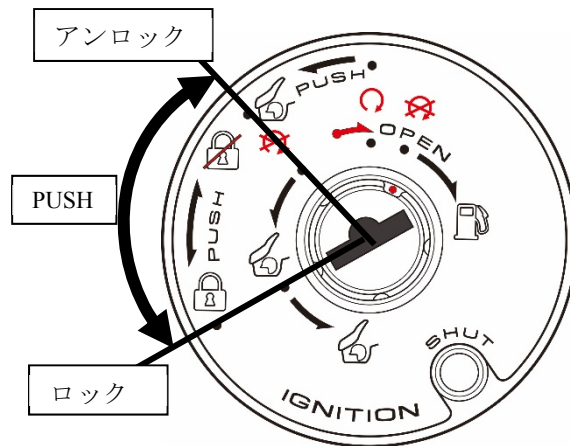
盗難防止のため、駐車時はハンドルをロックしてください。

ロックの方法：


ハンドルを左いっぱいに戻し、キーを内側に押しながら「」の位置まで左に回し、キーを抜きます。

解除の方法：

キーを「」の位置から「」の位置まで右に回すと解除できます。



ご注意

- 「」の位置にある時ハンドルを軽く揺らしロックされているか確認してください。
- 停車する際は交通安全の妨げになる場所には停車しないでください。

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

セルボタン

セルボタンを使用する際は、前または後ろのブレーキレバーを握ることで電源が通じ始動できます。



3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

ハイ/ロービーム切替スイッチ

ハイ/ロービームの切り替えに使用します。

- ☰D : ハイビームを使用する際はこの位置にします。
- ☷D : 市街地の走行または前方から車が来る際はロービームを使用し前方から来た車の視線を邪魔しないようにしてください。



パッシングライトスイッチ

- PASSING⇩ ... ロービームの位置で連続して下に向けて押すとヘッドライトが点滅し前方に車が来たことを知らせます。



3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

ウインカースイッチ

方向転換または車線変更時にはウインカーを使用し、スイッチを入れるとウインカーが点滅します。


☞ : この位置は左折時に使用します。

☜ : この位置は右折時に使用します。

- 解除する際はウインカースイッチを押します。




ホーンボタンスイッチ

メインスイッチが「」の状態ではホーンボタンスイッチを押すとホーンがなります。



ご注意




- ウインカーは自動解除しませんので、使用後は元に戻してください。
- メインスイッチが「」の位置ではウインカーは作動しません。

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

シートロック

ヘルメットを収納する場合、シートを開けてください。

シートの開け方：

1. エンジンを止めメインスイッチが「」の位置の状態、キーを左に回すとシートが開きます。
2. エンジンを始動にメインスイッチが「」の位置にあっても、キーを挿して内側に押しながら左に回せばシートが開きます。
3. ハンドルを「」の位置でロックしている場合、左に回してもシートを開けられます。

シートの閉め方：

1. シートを降ろし、シート後方を下に押せば自動的にロックされます。
2. その後シート後部を軽く持ち上げてロックされているかどうか確認してください。

ご注意

- キーをシートボックスに入れたままシートをロックしないでください。

ヘルメットフック

使い方：

1. シートを開け、上に持ち上げます。
2. ヘルメットをフックに引っ掛けます。
3. シートを降ろしシート後部を下に押してロックします。

ヘルメットの取り出し方：

- 使い方 1.を参考にシートを開けてヘルメットを取り出します。

ヘルメットフック



注意

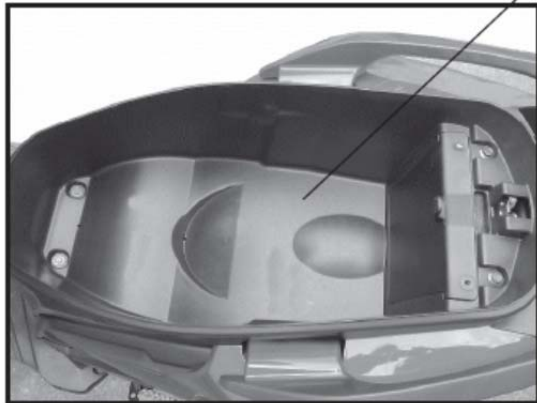
- 機器や塗装外観の損壊を防ぐため、運転中にヘルメットを車にロックしないでください。

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

ヘルメットボックス

ヘルメットボックスは座席の下にあります。
シートの開け方はシートロックの使い方 1.を参考にして
ください(3-10 ページを参照してください)。
ヘルメットを置く際は、ヘルメットのあご部分を下に向け
ておいてください。

ヘルメットボックス



⚠️ ご注意

- ヘルメットをボックスに入れる際は最大荷重が10kgを超えないようにしてください。
- シートは間違いなくロックしていますか。
- エンジンの温度は大変高いので、耐熱性の低い物や食品、可燃性物質は中に入れてください。
- 貴重品および割れやすい物の中に入れてください。
- 洗車時は水が入る場合がありますのでご注意ください。

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

USB 携帯電話充電コンセント 製品仕様

項目	使用	備考
動作電圧	DC 5V ± 10%	

出力紹介

項目	仕様	備考
出力電圧	DC 5V	
出力電流	電流要求 2A(を含む)以下のデジタル製品の充電への使用を推奨	

機能

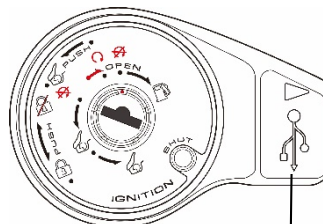
項目	仕様	備考
機能	<ol style="list-style-type: none">無負荷時はLED 緑ランプが常時点灯負荷時のLED 赤ランプ常時点灯は正常(充電中)を表します負荷時のLED 赤ランプ点滅は異常状態(出力ショート)(判定基準 1)を表します車載バッテリーの電圧低下時は赤ランプが点滅し、10 秒間警告後に充電不可となります(判定基準 2)	

※判定基準 1:

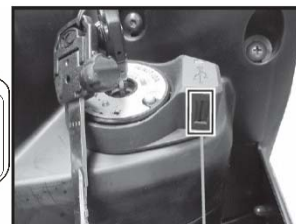
- A. ショート発生時に電源遮断/出力停止ならびに LED 赤ランプを点灯します。
- B. ショート保護起動時にショートが排除された場合、3 秒以内に正常な状態に回復します。

※判定基準 2:

- A. USB 最低充電電圧は約 DC12V。
- B. 製品の充電に使用する場合、電圧が最低充電電圧より低い場合(低電圧が 20 秒間持続すると低電圧と判定)、警告音を発し警告ランプが点灯、時間は 10 秒間。
警告音の周期：ON 0.5 秒、アラーム音を 2 回発し、OFF 0.5 秒。
警告灯の周期：ON 0.5 秒、OFF 0.5 秒。
- C. 警告音と警告ランプは 10 秒以内に充電製品を取り除き、直ちに停止するよう促します。
- D. 警告音と警告ランプが 10 秒間持続する間に充電製品を取り除かなくても警告は継続しません。



携帯電話充電コンセント



USB 挿入口

3.メーターおよび各コントローラー機能の操作

USB 携帯電話充電コンセント 注意事項

項目	仕様	備考
仕様状態	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本製品使用中に熱を発するが正常な現象です。 2. 本製品は KEY ON で車を始動しなくても USB 充電できますが、車載バッテリーの電圧が低い時は判定基準 2 を招き、かつ KEY ON 後充電ランプが赤に変わる時間は携帯電話メーカーによって異なります。 3. バッテリーが低電圧となるのを防ぐため、ユーザーはエンジン始動後に USB 充電をおこなうよう推奨します。 4. USB アダプタプラグは使わないこと(例：1対2または1対多数のアダプタプラグで充電をおこなうと、過負荷による危険を招く恐れがあります)。 5. 漏電やそれに関する危険防止のため、絶対に USB 充電器本体を分解して充電をおこなわないでください。 6. 製品の充電に使用する際に、バッテリーの電圧が不足すると、警告音と警告ランプで知らせ、10 秒後に電源を遮断します。 7. 純正品の電線を使用し充電をおこなってください。純正品でない場合 USB で充電できない場合があります。 	

項目	仕様	備考
仕様状態	<ol style="list-style-type: none"> 8. 最高の充電効率を得るため電池は純正品を使用するよう推奨します。純正品でない場合、充電効率の低下やランプや警告音の動作が不正常になる場合があります。 9. USB 内部の水分凝結によりショートする場合があります(赤ランプが点滅)。USB の充電ケーブルを何度か抜き差しし水分を取り除いてください。 10. 携帯電話充電中にバックグラウンドでアプリケーションが作動している場合(ナビゲーション等)、充電完了時に赤と緑のランプが交互に点滅する場合があります。 11. 充電装置を外さないと、アラームが警告音を発します。その時間は携帯電話と電池の品質によります。 	

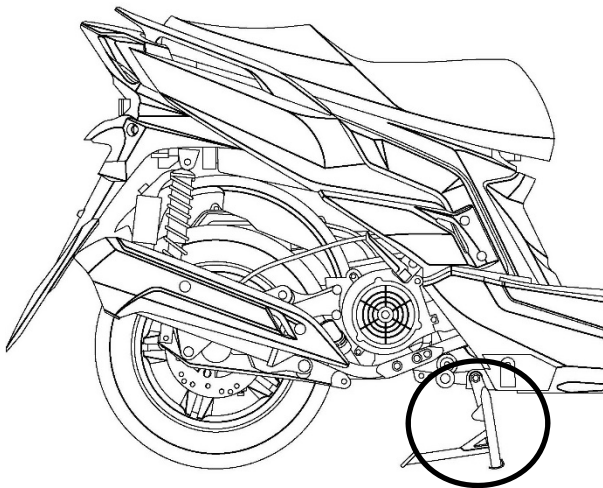
4. エンジンの始動方法

4-1. エンジン停止スイッチ

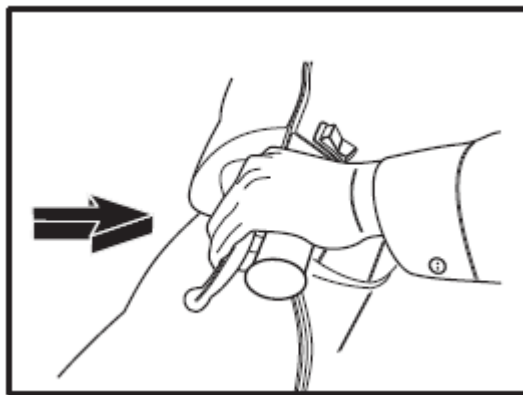
4-2. セルモーターによる始動

4.エンジンの始動方法

- 始動前にオイルとガソリンを点検します。
- エンジン始動時はメインスタンドを立てます。




■ リアブレーキレバーをきつく握ります

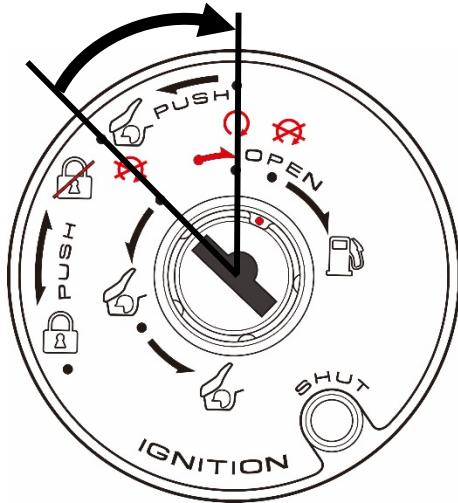


⚠ 警告


- 始動後に車が急発進するのを防ぐため、必ず後輪を固定してください(リアブレーキレバーをきつく握ります)。
- リアブレーキレバーの遊びが不正確ですと、後輪を固定できず危険です。

4.エンジンの始動方法

- メインスイッチを回して「」の位置にします。



ご注意

- キーが「」の位置にある場合、ホーンボタンを押すかウインカースイッチを切り替えると、ホーンまたはウインカーが作動します。

セルモーターによる始動

■エンジンの始動

スロットルを回す必要はなく、セルボタンを押すだけでエンジンが始動します。

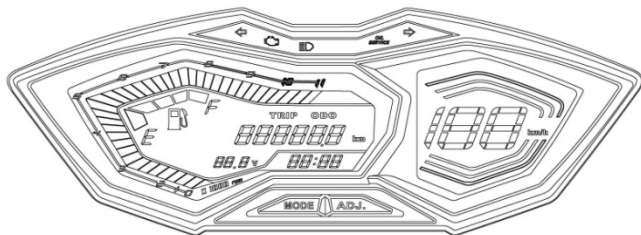


ご注意

- エンジン始動後はすぐに指をセルボタンから離してください。
- エンジン運転中は、エンジン部品の損壊を防ぐため、セルボタンを押さないでください。
- エンジン始動時、リアブレーキレバーはブレーキ状態にし、電源が通じるとブレーキランプが点灯します。

4.エンジンの始動方法

- エンジンが冷めた状態で始動した場合、しばらく暖機運転をします(約 1-2 分)。高山地区および低温地区でも暖機運転をすることで(約 3-5 分)、エンジンの保護と性能の発揮にプラスとなります。

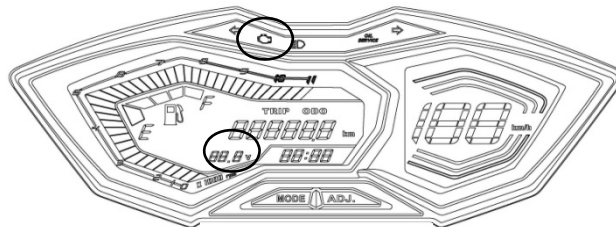


警告

- 運転前はリアブレーキレバーはブレーキ状態を保ってください。
- 排出される排気ガスに含まれる一酸化炭素は人体に有害ですので、狭い場所や風通しの悪い場所では始動させないでください。

- 始動時に始動できない場合、バッテリーの低電圧警告灯が点灯していないか点検し、点灯している場合は充電システムの点検もしくはバッテリーの交換が必要です。

エンジン点検ランプ



バッテリー電圧表示

ご注意

- バッテリーが上がった時にジャンプコードで他の車両から繋いでエンジンを始動すると電気装置を壊す事があります。
- エンジン始動後にバッテリーの電圧異常があると、エンジン点検ランプが点灯し続けます。KYMCO 正規販売店にて点検を受けてください。

5. 正しい運転方法

5-1. メインスタンドの跳ね上がり

5-2. 前後ブレーキレバーの緩め

5-3. 正しい運転

5-4. 新車の慣らし運転

5-5. 雨天時の運転

5-6. 停車時の注意事項

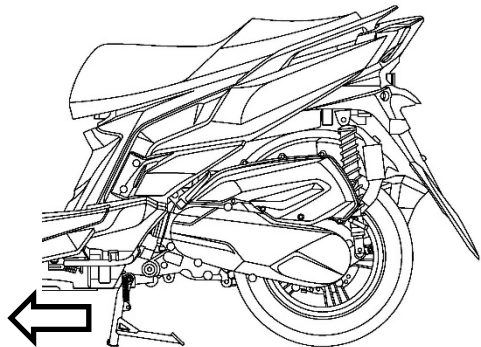
5-7. 車両が倒れた際の処置

5.正しい運転方法

まずメインスタンドを跳ね上げます

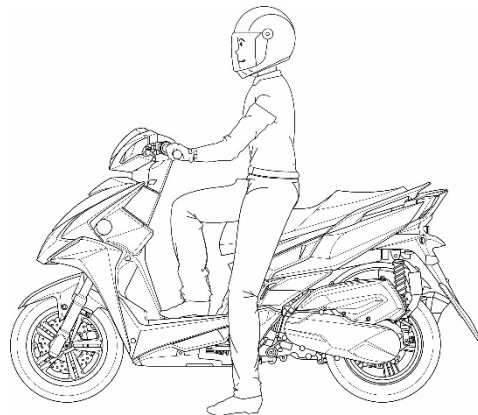
リアブレーキレバーをブレーキ状態に保ち、車を前に押すとメインスタンドが自動的に跳ね上がります。

左側から乗車し、確実に座り、左足を地につけて転倒を防ぎます。



⚠ 警告

- エンジンを始動し運転する前は、危険発生防止のためスロットルを回さないでください。

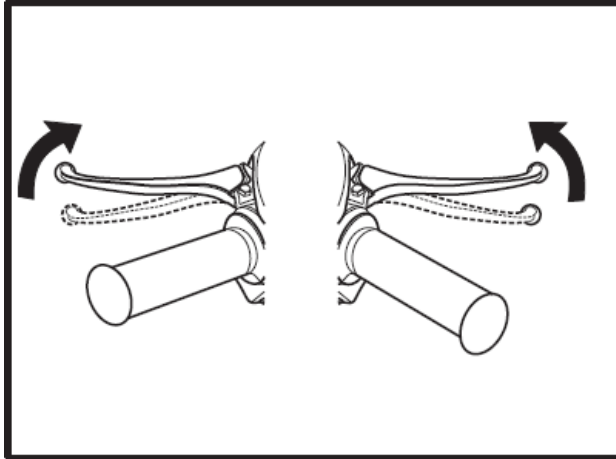


⚠ 警告

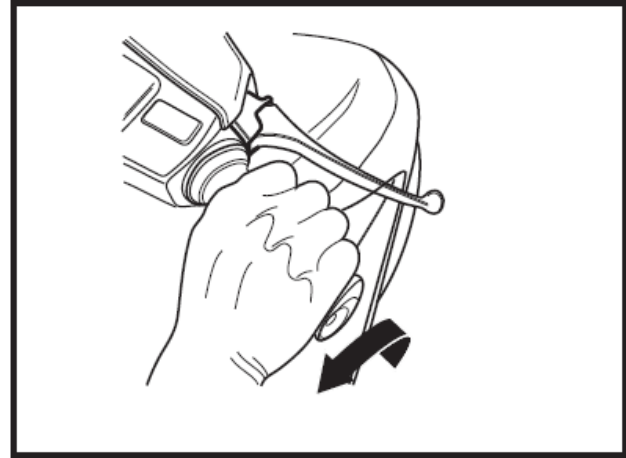
- 運転前リアブレーキレバーはブレーキ状態を保ち、勝手にエンジンの回転数を上げないでください。

5.正しい運転方法

前後のブレーキレバーを緩めます。



スロットルをゆっくり回すと車は徐々に走行します。



⚠ 警告

- ブレーキ解除後、車が前に飛び出すのを防ぐため、スロットルを任意に回さないでください。

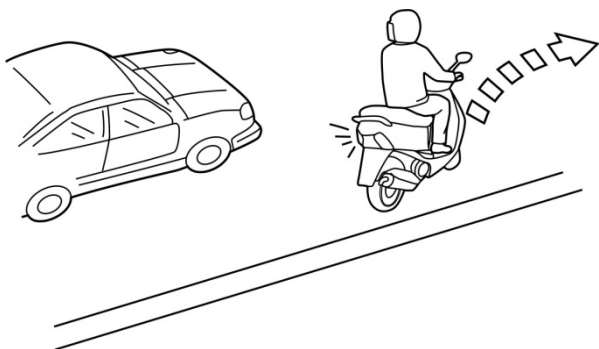
⚠ ご注意

- 車が急に飛び出すのを避けるため、スロットルは急に回さないでください。

5.正しい運転方法

正しい運転

出発前にウインカーを点け、後方の安全を確認し運転します。



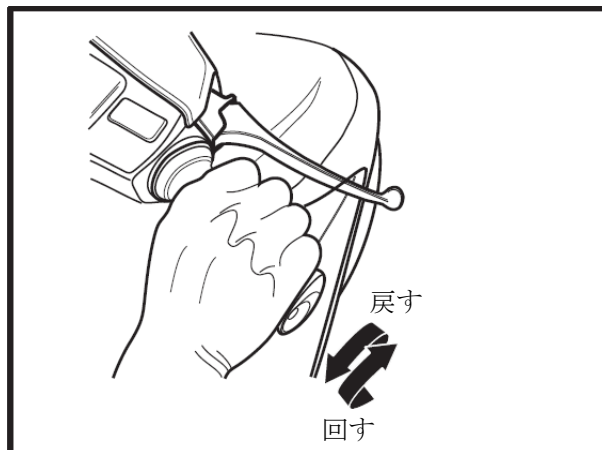
速度調節

速度調節はスロットルで制御します。

回転 スピードが速くなります。
ゆっくり加速します。始動または上り坂ではスロットルをゆっくり回して加速すると馬力が大きくなります。

元の位置に

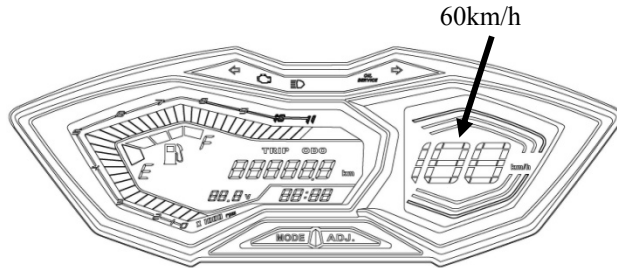
戻す スピードが遅くなります。
戻すとき動作は素早くします。



5.正しい運転方法

新車の慣らし運転

- 新車の慣らし運転は 3000 キロ(km)までは時速 60 キロ(km/h)以下を保ってください。
- 急な加速はお避けください。

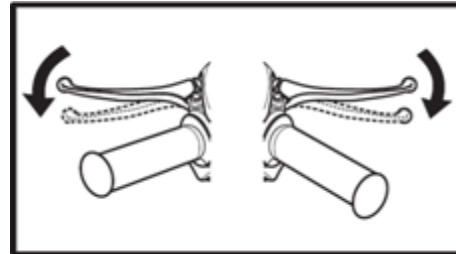


⚠ 警告

- 慣らし運転期に高速走行すると、エンジン部品を損傷することがあります。

ブレーキは前後ブレーキを同時に使用

- スロットルを元の位置に戻した後、前後ブレーキを同時に作動させます。
- ブレーキ時に前ブレーキレバーと後ろブレーキレバーを、最初は「ゆっくり」と、その後はきつくかけるのが最も理想的なブレーキ方法です。



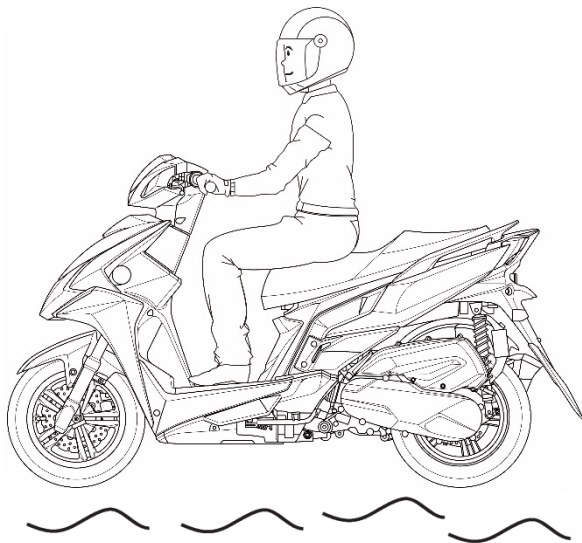
⚠ 警告

- 片側みのみのブレーキはスクーターが転倒する恐れがあるのでご注意ください。
- 運転中に急ブレーキをかけると転倒を招き非常に危険ですのでおやめください。

5.正しい運転方法

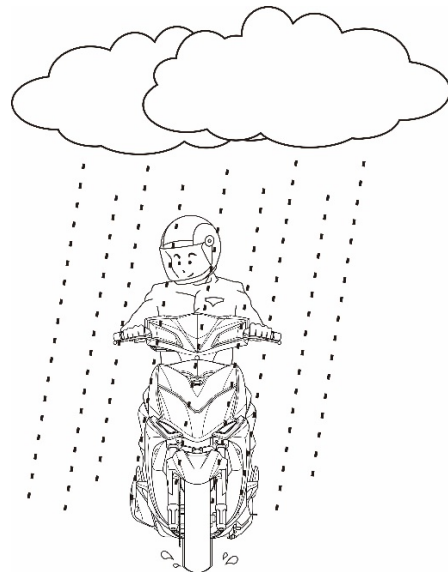
急ブレーキや急な方向転換はしない

急ブレーキや急な方向転換は横滑りの原因となり、大変危険です。



雨天時は特に注意して運転してください。

- 雨天時の路面は晴天時と異なり、ブレーキ距離が長くなるので速度を落とし早めにブレーキをかけてください。
- 下り坂ではスロットルをオフの位置に戻し、ポンピングブレーキをかけてゆっくり運転してください。

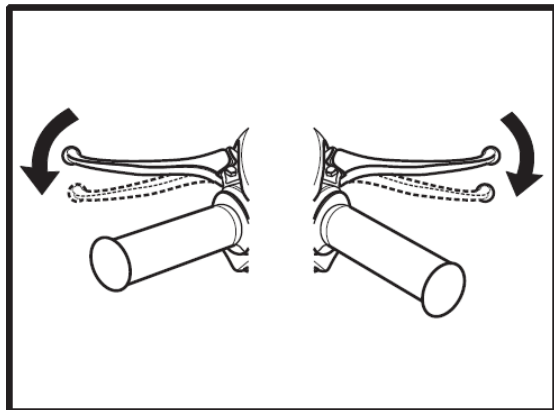


5.正しい運転方法


正しい停車方法

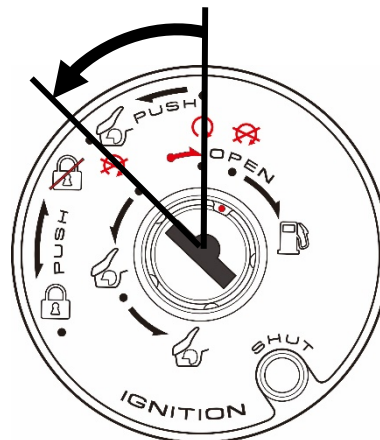
■ 停車位置に近づいたとき

- 早めにウインカーを出し後方と横の車両に注意し、ゆっくり停車位置に近づきます。
- スロットルを元の位置に戻し、早めに前後のブレーキをかけ、この時後ろのブレーキランプを点灯させ後続の車に知らせます。



■ 車が完全に止まってから

ウインカースイッチを元の位置に戻し、メインスイッチを「」の位置にします。



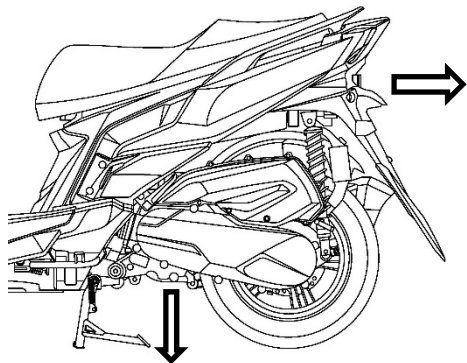
警告

- 走行中にメインスイッチを切りキーを抜くと、電気システムが作動しなくなり事故の原因となります。必ず停車してから操作してください。

5.正しい運転方法

■駐車時

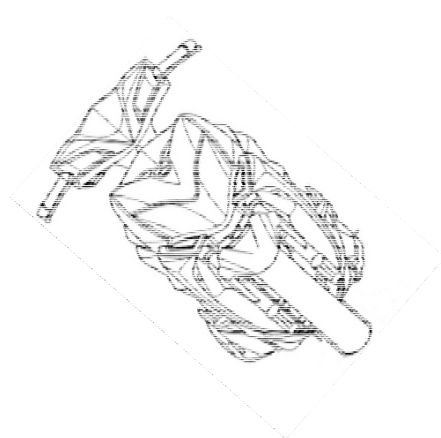
- スクーターの左側の平坦な地面に立ちメインスタンドを起こします。
- 交通の妨げにならない平坦な地面でメインスタンドを起こします。
- 平坦でない地面では車が倒れやすくなります。
- 左手でハンドルを正し、右手でシート下部のレバーを引っ張り、右足でメインスタンドを踏みながら右手で上に引き上げます。



- 盗難防止のため、停車時はハンドルロックをかけ、キーを抜いてください。

車両が転倒した場合の処理

車両が転倒しエンジンが止まったときに車両を再始動する際は、メインスイッチをオフにしてからもう一度オンにします。



⚠ 警告

- 車両が転倒し、ガソリンがこぼれだす危険を防ぐため、車両が 65 度以上傾いた際は自動的にエンジンが停止します。

6. 乗る前の点検

6-1. 乗る前の点検

6-10. 定期点検

6.乗る前の点検

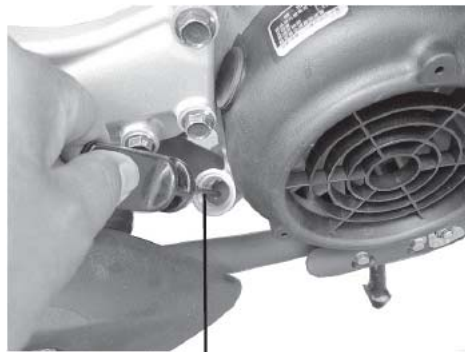
乗る前の点検

- 乗る前に点検する習慣をつけましょう。
- 安全および車両の故障や事故防止のため、必ず運行前点検をおこなってください。
- 困難または面倒でない点検は運転前におこない、異常を発見した際は KYMCO 正規販売店で点検をおこなってください。

■ オイルの点検、補給

メインスタンドを立て、オイルゲージを取り出して清潔にし、ゲージを直接挿入します(ねじ込まないこと)。

オイル量を測り、オイル面が下限に近付いている場合は、上限と下限の間までオイルを補給してください。



オイルゲージ

⚠️ ご注意

- エンジン、マフラーの温度は高いので、オイル量点検の際は火傷にご注意ください。

6.乗る前の点検

■推奨オイル

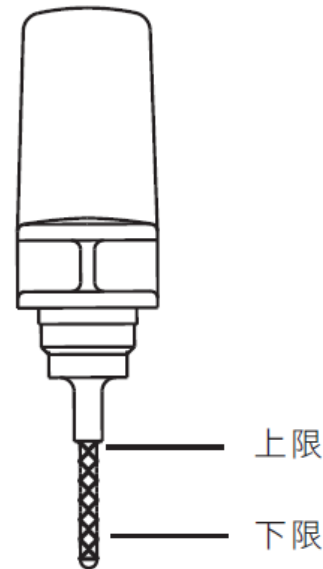
規格：SAE: 15W/40#

API: SJ/CD レベル以上。

- 新車の場合最初の 300km でオイルを交換し、以後は **2000km** ごとに一度オイルを交換します。

⚠ 警告

- 市場には偽のオイルが多く、誤って使用しエンジンの故障を引き起こすことがあります。
- お客様の愛車が推奨オイルと交換できるようにするため、お買い上げの KYMCO 正規販売店で交換してください。



⚠ ご注意




- 車両を傾けたり停車直後は、オイル面は正しく測れません。
- エンジン停止後すぐにオイル量を点検するかオイルを交換する際は火傷にご注意ください。

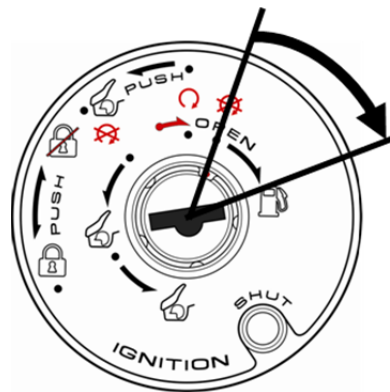
6.乗る前の点検

■ガソリンの点検、給油

- ガソリンメーターが E エリアに近づいたら、できるだけ早くガソリンスタンドで給油してください。
- 早めにレギュラー以上の無鉛ガソリンを給油してください。

ガソリンキャップの使い方：

1. まずエンジンを止めます。
2. メインスイッチが「」の位置から「」の位置まで回すとガソリンキャップが開きます。
3. 閉める際はガソリンキャップを下に押します。
4. エンジンを始動する際はメインスイッチを「」の位置に戻します。



6.乗る前の点検

⚠ 警告

- 給油の際は火気厳禁とします。
- 給油の際はエンジンを止めてください。
- 給油の際、ガソリン油面は基準線を超えてはならず、基準線を超えた場合溢れ出やすくなります。
- エンジンの安定を確保するため、1000km ごとに「KYMCO インジェクタ・クリーナー」を加え、燃料ノズルを清潔に保つようにしてください。
- ガソリントank内のガソリン量が不足した場合、燃料ポンプの正常な寿命への影響を考慮し、燃料ポンプを長時間作動させることはお避けください。

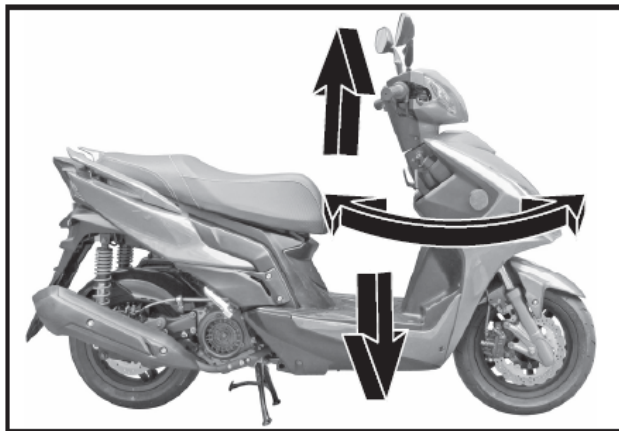


基準線

6.乗る前の点検

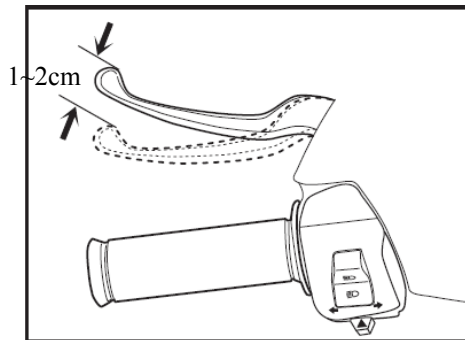
■ハンドルの点検

- 上、下、前、後ろ、左、右に揺らし緩みがないか点検します。
- きつすぎることはないか。
- ハンドルに衝撃が加わっていないか。
- 異常を発見した際は、KYMCO 正規販売店にて点検を受けてください。



■ブレーキの点検、調整

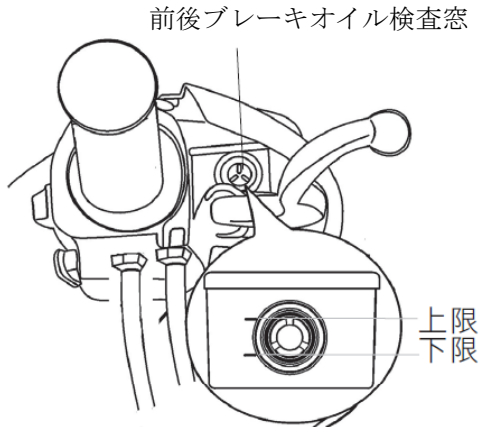
- ブレーキレバーには適切な遊びが必要で、正常な遊びは1~2センチです。
- 「遊び」とはレバーが緩い位置からきつく感じるまでの距離を指します。



6.乗る前の点検

■フロントブレーキオイルの点検

1. ハンドルを正し、右のオイルボックス内のブレーキオイルを点検します。必ず上限と下限マークの間を維持するようにしてください。
2. オイル面が下限位置近くまで下がった際は、ブレーキパッドが摩耗していないか点検してください。
3. ブレーキパッドの摩耗が規定限度内であるにも関わらずオイル漏れが示される場合、お買い上げのKYMCO正規販売店で点検修理してください。



■ブレーキオイルの補充(この図は Racing150シリーズのものです)

1. ハンドルを正し、ブレーキオイルボックスのふたの2本の固定ネジを外し、ふたを取ります。
2. 推奨ブレーキオイル DOT-4 をオイルボックス内の上限の印まで入れ、再度2本のネジでオイルキャップをしっかりと取り付けます。
3. ブレーキオイルは 10000km ごとまたは年に一度交換してください。

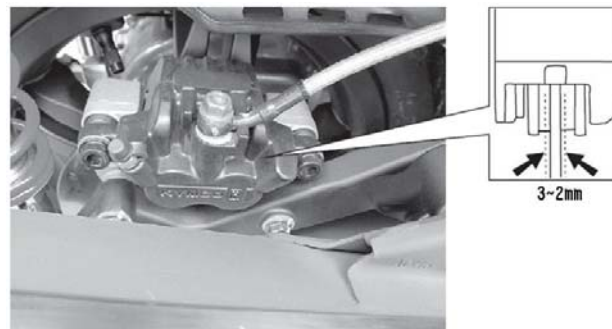
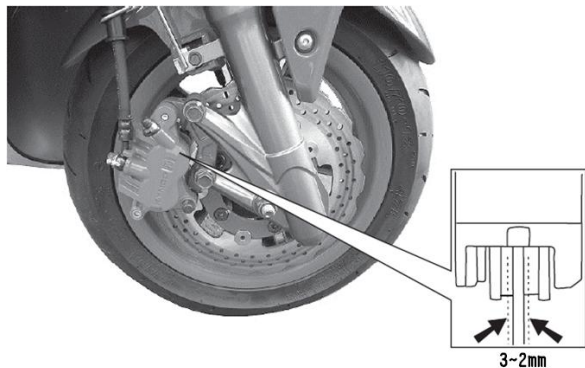


⚠️ ご注意

- 異なるブランドおよび異なる仕様のブレーキオイルを混ぜて使用するとブレーキのトラブルを引き起こし危険です。
- ブレーキオイルを補充する際は布類で塗装部分を覆い、塗装面を傷つけないようにしてください。

6.乗る前の点検

前後ブレーキパッドの点検



6.乗る前の点検

■タイヤの点検

タイヤと地面の接触状態とタイヤ空気圧が正常かどうか点検します。タイヤと地面の接触に異常がある場合、タイヤ空気圧ゲージで空気圧が正常かどうか点検します。

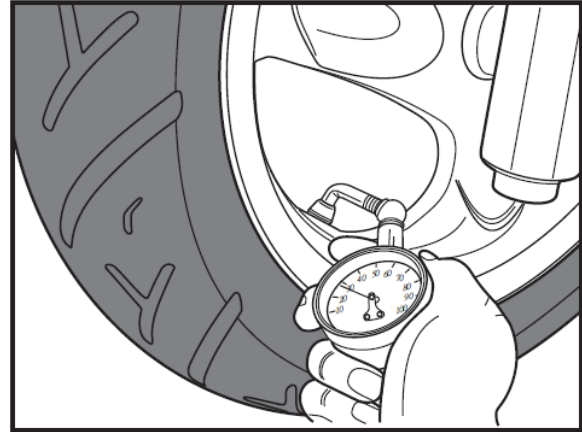
車が冷えた状態でのタイヤ空気圧：

前輪(1人乗り): 25.0 PSI (1.75kgf/cm²)

後輪(1人乗り): 29.0 PSI (2.00kgf/cm²)

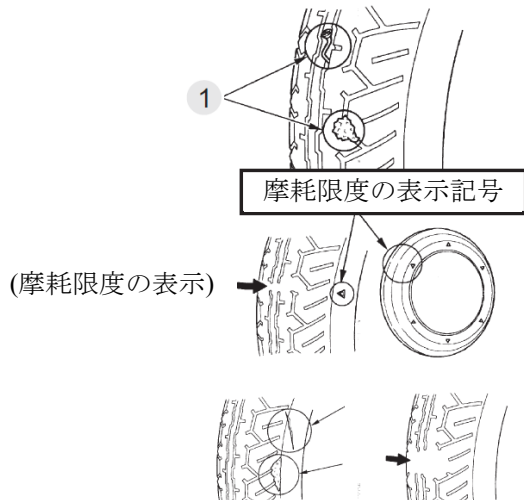
前輪(2人乗り): 29.0 PSI (2.00kgf/cm²)

後輪(2人乗り): 29.0 PSI (2.00kgf/cm²)




6.乗る前の点検

- タイヤの溝に金属片や小石等が詰まっている場合は取り除いてから再運転します。
- タイヤに亀裂があるか摩耗し溝が薄くなっている場合、直ちに新しいタイヤと交換します。(図面の矢印の指示を参照)





6.乗る前の点検


■ブレーキランプの点検と調整：

- メインスイッチを「」の位置にします。
- 前後のブレーキレバーを別々に握り、ブレーキランプが点灯するか確認し、汚れや破損がないか点検します。

注意事項：

メインスイッチが「」の位置にあっても、エンジン停止スイッチが「」の位置にあればブレーキランプは点灯しません。

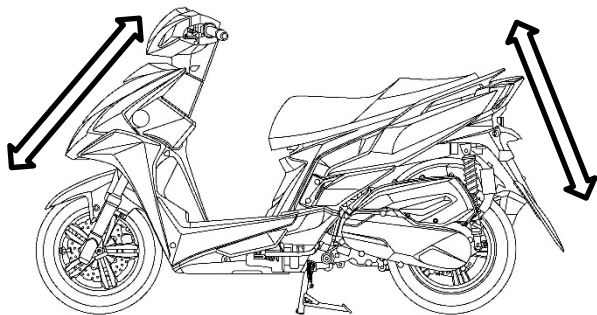
■ウインカーの点検

- メインスイッチを「」の位置にします。
- ウインカースイッチを操作し、前後左右のウインカーおよび指示ランプが点滅するか確認します。
- ウインカーに汚れや破損がないか点検します。

6.乗る前の点検

■前後のアブソーバの点検

ハンドル、シートに重量を加え、上下に揺らし動作が良好かどうか点検します。




前後のライト、ポジションランプは点灯するか。

エンジンを始動させ、ヘッドライトスイッチをつけると同時にヘッドライト、テールライトは点灯するか、ライトカバーに汚れや破損はないか点検します。

■メーターの表示は正確か。

■ホーンは鳴るか。

メインスイッチを「」の位置にし、ホーンボタンを押します。

■バックミラーの角度は適切か。

シートに座って後方の位置を確認し、損壊や汚れがないかも点検します。

■ナンバープレートに汚れや損傷はないか点検します。

ナンバープレートに汚れ、損傷がないか点検し、しっかり取り付けます。

■排気は正常か。

マフラーの緩みや騒音はないか点検します。

■その他過去にあった異常現象が今でも存在するか。

6.乗る前の点検

■定期点検

- あなたの車を安全快適に運転するため、必ず定期点検を受けてください。KYMCO 正規販売店では販売後のメンテナンス作業をおこないます。
- 点検時期および項目は使用マニュアルをご参照ください。
- スクーターを長期間使用しないときも定期点検を実施してください。

■最初の点検

新車購入後1か月以内または運転300kmに達した際は、必ず点検メンテナンスを受けてください。

⚠️ ご注意

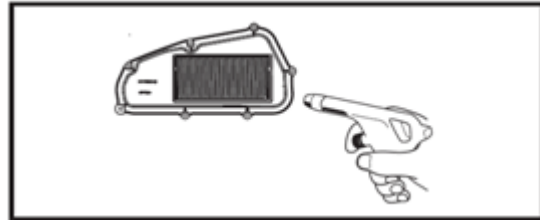
車両が湿度の高い環境にある場合（雨や洗車直後、等）により一時的にメーター内部に曇り等水分が侵入する事があります。水分侵入が長期に解決されない場合はお買い上げのKYMCO正規販売店にご相談して下さい。

■エアフィルターの点検

- 本機種のエアフィルターは紙を使用しており、2000kmごとに点検とクリーニングをおこないます。
- 5000km走行ごとに定期的に新しいものと交換してください。

■CVT 伝動システムフィルターの点検

- 5000km走行ごとに定期点検をおこない、クリーニングするか新しいものと交換してください。



⚠️ ご注意

下記の条件下での使用の場合、クリーニングするとともに早めに交換してください。

- 常に雨天時に運転する。
- 常に悪質な埃が多い路面を運転する。

6.乗る前の点検

■オイルの交換

<交換時期>

最初の運転では 300km で交換し、以降は **2000km** ごとに 1 回交換します。

エンジンの優れた性能を確保するため、500km 走行ごとにオイル量を点検し、不足していたらオイルを標準量まで入れます。

オイルの容量：

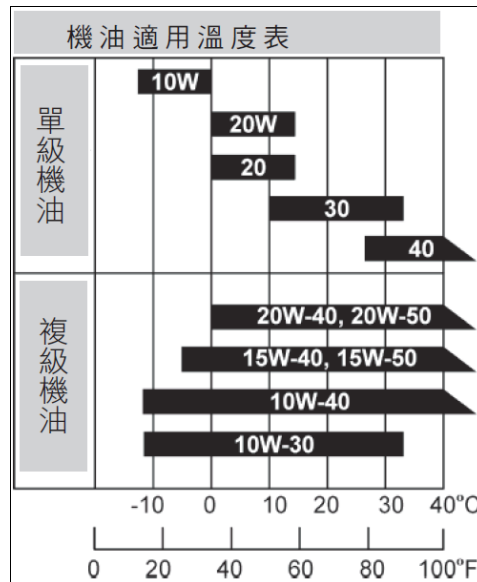
分解時：0.9L

交換時：**0.8L**

⚠️ ご注意

- 使用頻度が低く、3 か月の走行距離が 1000km を超えない場合、オイルが劣化しエンジンを損傷する恐れがありますので、オイルの交換をお勧めします。

■オイルの適用温度表



⚠️ ご注意

- 品質の悪いオイルを使用することがないように、交換時はお買い上げの KYMCO 正規販売店にて交換してください。

6.乗る前の点検

<交換方法>

1. オイルゲージを取り外します。
オールドレンボルトを取り、全てのオイルを流し出します。
- エンジンを温めるとオイルが流れやすくなります。
2. オールドレンボルトを清潔にしきつく締めます。
3. 新しいオイルを **0.8** リットル注入します。
- オイルゲージを使い確認します。(測る際ゲージはねじ込まないでください)
4. オイルゲージを確実に締めます。
5. 暖機運転の後、10～20 秒間停止し、再度オイル量を確認します。



オールドレンボルト

⚠️ ご注意

- 4 サイクル KYMCO 特別専用オイルをご使用ください。
- 下記の条件下での使用はオイルが劣化しやすいので、早めに交換してください。
 - 常に砂利道を運転する。
 - 常に短距離運転をする。
 - アイドリングの時間が長い。
 - 寒冷地で使用する。
- オイルを補充する際は、オイル上限マークを超えないでください。
- メーカー、クラスが異なる、低品質のオイルを混ぜるとエンジンを損傷する恐れがあります。
- エンジンが熱いうちにオイル交換すると火傷する恐れがあります。

注：オールドレンボルトを取り外した際は、清潔にし再度装着してください。

6.乗る前の点検

■オイル交換時の注意事項

- オイル量が多すぎたり少なすぎる場合、エンジンの性能に影響を与えます。

多すぎる場合-

エンジンの運転により摩擦部の抵抗が増し、出力が下がり、運転中にオイルの温度が上昇し、オイルは早めに劣化します。

少なすぎる場合-

エンジンの運転により摩擦部への供給量が減り、部品の摩耗や焼き付け等の原因になります。

- メーカー、クラスの異なるオイル、および低品質のオイルは、エンジンの損傷を招く恐れがあるので混ぜないでください。
- キムコの特別オイルは製造過程においていずれも各種添加剤(オレイン等)を含んでいます。
- 市販の添加剤を任意に購入し注入して混用することはオイルの性能劣化を招き、潤滑性能に影響を与えエンジン寿命を短くします。



オイル量シール

6.乗る前の点検

■ギアオイルの交換

<交換時期>

新車は最初の 300km で交換し、以後は半年または 3000km 走行ごとに一度交換します。

推奨ギアオイル：

キムコギアオイルまたは SAE90#規格のギアオイル



ギアオイルドレンボルト

ギアオイル注入口ボルト

ギアオイルの容量

全容量：120cc(ml)。

交換量：110cc(ml)。

<交換方法>

1. 平坦な地面でメインスタンドを立てます。
2. ギアオイルドレンボルトおよびギアオイル注入口ボルトを外します。
3. エンジンを温めてからおこなったほうが、ギアボックス内の残留ギアオイルが流れ出しやすくなります。
4. ギアオイルドレンボルトを洗った後きつく締めます。
5. ギアオイル注入口からギアオイルをゆっくりと注入します。(ギアオイル交換量により交換します)
6. ギアオイル注入後、ギアオイルがしみ出さないよう注入ボルトを確実に締めます。
7. 新車は最初の 300km で交換し、以後は半年または 3000km 走行ごとに一度交換します。

ご注意

下記の条件下では早めにギアオイルを交換してください。

- 常に雨天に走行する。
- 長時間長距離走行する。
- 重い負荷を与えて走行する。

6.乗る前の点検

■プラグの点検、調整

電極が汚れているか、隙間が大きいと不完全な点火となります。

<清掃方法>

- 点火プラグクリーナーでクリーニングし最適の状態にします。
- クリーナーがない場合、針でもクリーニングできます。

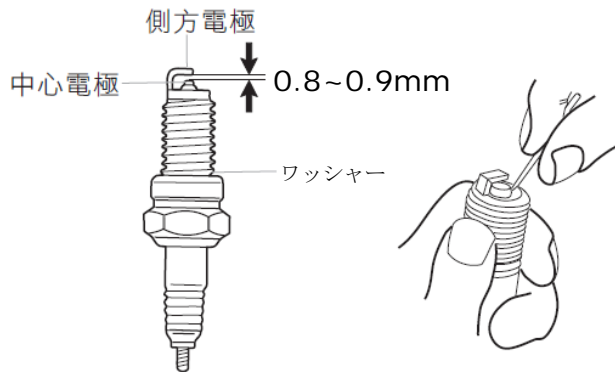
<調整>

- 点火プラグの正常な間隔は0.8～0.9mmです。
(右図のとおり)

<指定点火プラグ>

(NGK) CPR8EA-9

- 指定以外の点火プラグは使用をお避けください。



⚠️ ご注意

- エンジン停止後は高温で火傷する恐れがあります。
- まず点火プラグを手できつく締めた後、点火プラグレンチできつく締め直します。

7. 定期的および簡単なメンテナンス、故障処理

7-1. 注意事項

7-2. 定期メンテナンス一覧表

7-3. バッテリーの点検

7-4. ヒューズの交換

7-5. エアクリナー

7-6. CVT 伝動システムフィルター

7-7. ユーザーの注意事項

7-8. 車両故障時

7. 定期的および簡単なメンテナンス、故障処理

注意事項：

点検の結果清掃、調整、交換等が必要な際は、定期点検記録表の説明にもとづいておこなってください。



ご注意

メンテナンスの際は安全に注意してください。

- 平坦な地でメインスタンドを立てます。
- 適切な工具を使用し作業します。
- エンジンが停止状態の時に整備作業をおこないます。
- エンジン停止後はエンジン本体、マフラーの温度が高いため火傷にご注意ください。

7.定期的および簡単なメンテナンス、故障処理

公害低減定期メンテナンス一覧表

運転の安全維持と車齢の延長のため、また汚染排出低減のため、定期点検とメンテナンスをしっかりとこなしてください。

排出制御システムおよび定期点検メンテナンス項目および時間表：

I:点検、必要時には清掃、潤滑、補足、修正または交換 A:調整 C:清掃 R:交換 T:ロック M:修理メンテナンス D:診断器による点検

メンテナンス走行距離		300	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000	9000	10000	11000	12000	13000	14000	15000	備考
潤滑システム	エンジンオイル		R		R		R		R		R		R		R			I:点検 A:調整 C:清掃 R:交換 T:ロック M:修理メンテナンス D:診断器による点検
	オイルフィルター		C		C		C		C		C		C		C		C	●修理メンテナンスおよび診断器による点検等の項目は、KYMCO正規販売店の基準により実施する。
	ギアオイル		R		R		R		R		R		R		R		R	
燃料ポンプ/燃料ポンプフィルター				I/C			I/C					I/C				I/C		
エア供給システム	給油ワイヤー			I			I					I					I	●車両走行中または点検中に潤滑オイルの補充、調整または交換による清掃の必要が見つかった場合、汚染排出への影響が深刻でない場合、直接おこない記録できる。汚染排出への影響が深刻な場合、報告し承認後におこなうことができる。
	エアフィルター			C			R		C			R		C			R	
	活性炭炭缶			I			I					I					I	
	伝動システムフィルター			C			R		C			R		C			R	
	PCV蒸気制御バルブ			I			I					I					I	
駆動システム	制御に関する各エアパイプ			I			I					I					I	●CVT Outer クラッチカバーは定期メンテナンスの際に内部の異物を取り除いて清潔にすること。
	触線コンバーター			I			I					I					I	
	カムチェーン			I			I					I					I	
	伝送チェーン(本車にはこの機構はなし)																	
点火システム	駆動ベルト			I			I			M		I				M	I	●1000kmごとにKYMCO指定のノズルクリーナーをガソリンタンクに加えるよう提案する(用量は指示による)。
	バルブの隙間			I			I					I					I	
	点火プラグ				I		I			I		R		I			I	
エンジン管理システム	点火経路						I					I					I	●燃料ノズルおよびスロットル本体は3か月ごとまたは10000km未満で清潔にすること。
	スロットル本体						M/I					M/I					M/I	
	燃料ノズル				D/M		D/M		D/M			D/M		D/M		D/M	D/M	
	アイドlerエアパイプバルブ						D/M					D/M					D/M	
	エンジン水温センサー			D			D		D		D		D		D		D	
	吸気圧力センサー			D			D		D		D		D		D		D	
	転倒センサー			D			D		D		D		D		D		D	
	点火コイル			D			D		D		D		D		D		D	
バッテリー			D			D		D		D		D		D		D		
その他	車体の重要ボルト	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	●燃料ノズルおよびスロットル本体は3か月ごとまたは10000km未満で清潔にすること。
	ブレーキシステム(ディスクブレーキシステム)	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	M	I	I	I	I	I	
	ブレーキワイヤー	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	

不定期メンテナンス

項目	現象および処理
点火システム	明らかな連続点火障害、エンジン加熱、エンジン停止が見られる場合、メンテナンスまたは点検をおこなうこと。
炭素除去	10000-15000kmの間でエンジン馬力が大幅に低下した場合、排気システム、シリンダヘッド、ピストン、スロットル本体、燃料ノズルにたまった炭素を除去すること。
伝動システム	5000 km まで間に速度が明らかに低下した場合、CVTシステムに対しメンテナンスと点検をおこない、必要時には交換すること。
ピストン	1000 km 未満では過激な使用によりピストン、ピストンリングおよびシリンダブロックが摩耗したり引っ掛かったりした場合は清掃、中ぐりをするか新品と交換すること。
燃料ノズル	1000km ごと、あるいは長時間未使用で放置した場合、燃料ノズルにたまった炭素またはコロイド物を取り除ききれいにすること。
ABS 車輪スピードセンサー	5000km ごとにメンテナンスと点検をおこない、必要時には交換すること。

7. 定期的および簡単なメンテナンス、故障処理

バッテリーの点検

■本機種はメンテナンスフリーバッテリーを採用しています。

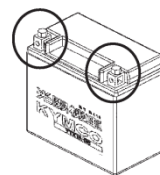
- バッテリーは補水点検をする必要がありません。

バッテリー電圧の点検：

電圧メーターを用い、バッテリーの電圧が 12V 以上であることを点検し、電圧が低い場合はバッテリーを取り外ししフル充電します。

■バッテリー端子のクリーニング

- バッテリー端子を清掃する際はまずヘルメットボックスを開け、カバーの固定ネジ 1 本を外し、カバーを開けます
- 端子頭部が腐食している場合、バッテリーを取り外しクリーニングしてください。
- クリーニング終了後端子にグリースかワセリンを薄く塗りカバーを戻します



⚠️ ご注意

- 密閉式のバッテリー電解液カバーを絶対に開けないでください。
- 長期間使用を停止するとバッテリーは自己放電し電力が徐々に下がりますので、バッテリーを車から外しフル充電した後通風の良い涼しい場所に置いてください。
- 車を長期間使用しない時はバッテリーのマイナス端子を外してください。
- バッテリーの電圧が下がると、メーターのバッテリー指示ランプが点灯します。必ずバッテリーを取り外してフル充電するか KYMCO 正規販売店で点検を受けてください。

⚠️ ご注意

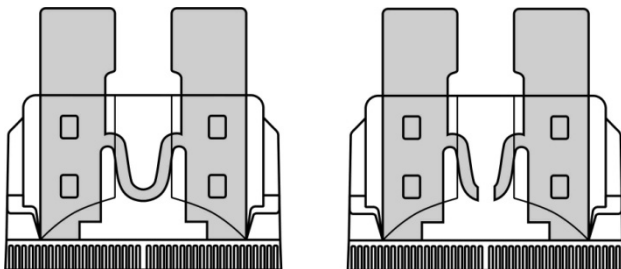
- バッテリーを外す際は火気に近づけないでください。
- 取り外すときはメイン電源を切り、 \ominus 極を先に、次に \oplus 極を取り外し、取り付ける際は \oplus 極を先に、次に \ominus 極を取り付けます。
- 端子キャップが緩んだときは、しっかり締め直します。

7.定期的および簡単なメンテナンス、故障処理

ヒューズの交換

- メインスイッチを切り、ヒューズが溶けていないか点検します。
- ヒューズを交換する際は規定の容量により交換してください。
- 交換時にはまずヒューズが溶けた原因を追究してから交換してください。

ヒューズの規格：10A、25A、10A



⚠️ ご注意

- 電装品類(ライト、メーター類)交換時は指定規格の部品をご使用ください。
- 使用規格に合わない場合、ヒューズは切れやすくなりバッテリーへの負荷が不均衡となります。
- 洗車時はできるだけ水で強く洗わないでください。

7. 定期的および簡単なメンテナンス、故障処理

エアクリーナー

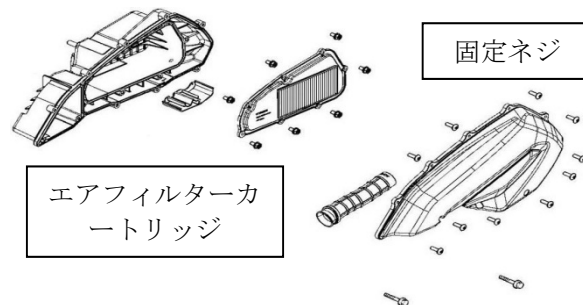
埃の蓄積は馬力の低下とガソリン浪費の主な原因です。

<取り外し方法>

1. フィルターカバー固定ネジを取り外します。
2. フィルターカバーを取り外します。
3. エアフィルターカートリッジ固定ネジを取り外します。
4. エアフィルターカートリッジを交換します。

<取り付け方法>

取り外しと反対の方法で取り付けます。



⚠️ ご注意

- エアクリーナーの装着が不完全ですと埃が直接シリンダー内に入り、破損や馬力の低下、エンジン寿命に影響を与えます。
- 始動不良の原因になりますので、洗車時はエアクリーナーを湿らせないでください

7.定期的および簡単なメンテナンス、故障処理

CVT ドライブシステムフィルター

CVT ドライブシステムへの埃の蓄積は車の異常現象を引き起こしますので、定期的にクリーニングしフィルターを交換してください。

7-2 ページの定期メンテナンス表にもとづき周期的にフィルターをクリーニングしてください。

5000km ごとにフィルターを交換するかクリーニングしてください。

<フィルターの交換>

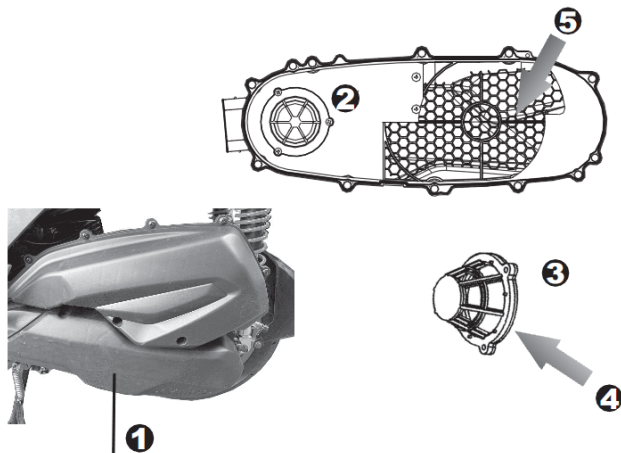
1. 左クランクケースカバーの固定ボルトを取り外します(図 1 を参照)。
2. 左クランクケースカバーのスペーサーネジを取り外し、スペーサーを取り出します(図 2 を参照)。
3. フィルターの 3 本の固定ネジを取り外します(図 3 を参照)。
4. エアフィルターを交換します(図 4 を参照)。

<取り付け方法>

取り外しと反対の容量でおこないます。

<クリーニング方法>

1. 左クランクケースカバーの固定ボルトを取り外します。
2. 左クランクケースカバーのスペーサーネジを取り外し、スペーサーを取り出します。
3. エアガンでフィルター本体をクリーニングし(図 4 を参照)、左クランクケースカバー内部の汚れを拭き取ります(図 5 を参照)。



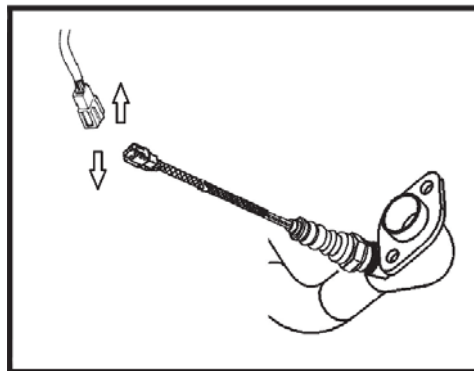
左クランクケースカバー

7. 定期的および簡単なメンテナンス、故障処理

ユーザーの注意事項：

1. メイン電源がオンの状態でバッテリーコード端子を外さないでください。

2. ユーザーあるいは修理技術スタッフはマフラーを交換する前に、まずO2センサーコネクタを抜いてください。



⚠️ ご注意

車両を放置したり湿った環境で走行する(例：雨天または洗車...等)と車のメーターおよびライト類のカバー内部に、内外の温度差による一時的な水滴がつく場合がありますが、特に問題ではありません。しかしメーターおよびライト類のカバー内部に大量の水滴がついたり水がたまったりした際は、KYMCO 正規販売店にてサービスを受けてください。

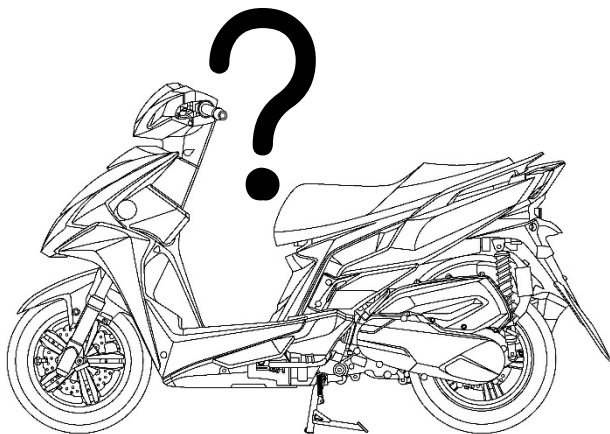
7.定期的および簡単なメンテナンス、故障処理

車両故障時：

走行中に故障が発生した場合、KYMCO 正規販売店にて修理をおこない、純正部品と交換されるようお勧めします。

エンジンが始動しない、または走行中に停止する場合、まず下記の事項を点検してください。

- ガソリンはまだありますか。
燃料指示針が E エリアに近づいたらレギュラー以上の無鉛ガソリンを補給してください。
- エンジンの始動方法は正しいですか。
- 他の部品に問題は起きていませんか。



8. 環境保護機構の紹介とメンテナンス

8-1. 排気排出制御システムの紹介

8-2. 排気排出制御システムのメンテナンス

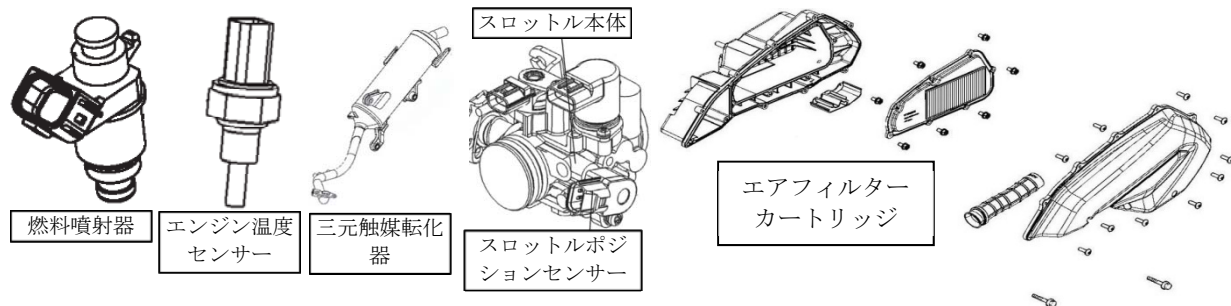
8-3. 蒸発排出制御システムの紹介

8-4. 蒸発排出制御システムの点検

8-5. 公害に関係のある原因、排気ガス濃度、罰金および騒音値等の基準参考表

8.環境保護機構の紹介とメンテナンス

環境排出制御システム： 当車種の排気排出制御システムは燃料噴射システムを用い効果的に汚染排出を制御しており、排気システム三元触媒転化器により再度汚染を転化し超低排気汚染効果を達しています。



⚠ 警告

マフラーの外側は大変熱いので、火傷を防ぐため、人や自動が触れない場所に停車してください。

⚠ ご注意

1. 排気排出制御システムを正常に作用させるため、定期点検とメンテナンスをお受けください。
2. 排気排出汚染に影響を与え処罰される場合がありますので、任意に改造しないでください。
3. 問題がある場合、KYMCO 正規販売店で点検を受けてください。

8.環境保護機構の紹介とメンテナンス

排気排出制御システムのメンテナンス

作業方法：

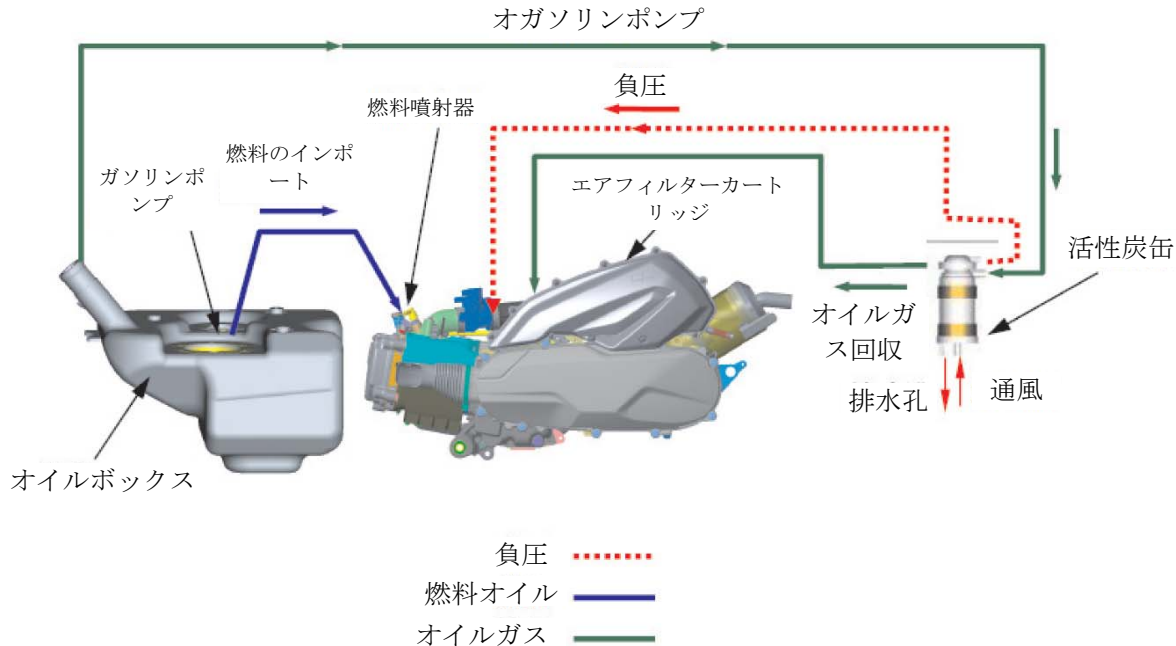
1. エアクリーナーの清掃は7-5ページの作業方法を参考にしてください。
2. エンジンオイル-エンジンの潤滑性を保ち動作を滑らかにしますので、新車 300 キロおよび 2000 キロ走行ごとに一度オイルを交換してください。
3. ガソリン-点火システムの性能と燃焼効率を高めるため、必ずレギュラー以上の無鉛ガソリンを使用し、有鉛ガソリンは絶対に使用しないでください(有鉛ガソリンは排気管内の触媒転化器の老化を招きます)。
4. 噴射機種種の排気濃度測定に関する検査基準値については、排気検査の検査ステーションまたは定期検査ステーションにて修正作業をおこなってください。

排気ガス検査基準値

五期法規（台湾）	R.P.M	CO%	HC ppm
使用中の法規値		3.5 以下	1600 以下
触媒の前検査値	1800±100	0~1.5	

8.環境保護機構の紹介とメンテナンス

蒸発排出制御システム(E.E.C)は蒸発排気排出システムとして、オイルボックスおよびスロットル本体内で蒸発したオイルガスを活性炭缶内に集め、エンジンの負圧を利用して P.C.V.バルブを制御し、インテークマニホールドで負圧が発生した際に P.C.V.バルブが開き、活性炭缶内のオイルガスをエンジン燃焼室に吸入し、再度燃料として使用するもので、それによりオイルガスが大気中に飛散し環境空気汚染を引き起こすのを防ぎます。



8.環境保護機構の紹介とメンテナンス

蒸発排気制御システム(E.E.C)定期点検の方法：

1. E.E.Cシステムの各パイプヘッドの締め具合や破裂を点検し、きつく締めるか新品と交換します。
2. カーボンキャニスター口で吹き通気性を点検し、通気不良や詰まっている場合は新品に交換します。
3. 油分離器-活性炭缶に通じるパイプを外し圧縮空気を吹いて通りを点検し、通りが悪い場合は新品に交換します。
4. 排気排出制御システムメンテナンス項目表に記載の項目を参考にメンテナンスをおこなってください。

不定期点検：

車両に予想外の事故が起きた場合、E.E.Cシステムの各パイプ部品に破裂やゆるみがないか点検するとともに、排気排出制御システムメンテナンス項目表に記載の項目を参考に定期メンテナンスをおこなってく

提案事項：

1. 当該車種の汚染排出値は第五期法規管制基準を満たしています。調整可能パラメータの設定は任意に調整しないでください。
2. 蒸発排出制御システム装置の真空パイプは取り外したり改造したりしないでください。
3. 排出汚染を避けるため、アイドリング状態のときはアクセルを吹かさなさい。
4. 定期メンテナンスの他、異常を感じた際は(始動不良、排気ガスが黒い等)すぐにKYMCO正規販売店で修理してください。
5. レギュラー以上の無鉛ガソリンを使用し、汚染防止装置の使用機能を確保してください。

8.環境保護機構の紹介とメンテナンス

公害と関係のある原因、排気ガス濃度、罰金および騒音値等の基準参考表

自動車バイクアイドリング時の排気濃度が高すぎる際に考えられる原因

CO	HC	考えられる原因
高い	正常	ガソリンと空気の混合比が濃すぎる
正常	高い	1. 点火システムの不良： ● 点火タイミングが不正確 ● 点火プラグの詰まりまたは隙間が不適正 ● 点火コイルの不良 2. 排気バルブの摩耗 3. シリンダの摩耗
低い	高い	1. ガス希薄による点火不良 2. 真空の漏れ ●真空パイプ ●インテークマニホールド ●ジョイントワッシャー
高い	高い	1. エアフィルターの詰まり 2. アイドル混合ガスが濃すぎる 3. O ₂ センサー故障による混合比の濃度過多 4. 触媒の毒化または失効による汚染値への転化不能

9. 仕様表

9-1. RACING S 125 仕様表 (SR25JC)

9.仕様表

RACING S 125

項目	仕様(SR25JC)
エンジン形式	SR25
排気量	124.8 cc
ボア×ストローク	Φ54mm × 54.5mm
圧縮比	10.2
変速方式	CVT
クラッチ	乾式遠心式
点火方式	ECU 制御点火
始動方式	セル始動
ガソリントank容量	5.7L
オイル全容量	0.9L
ギアオイル全容量	120cc(ml)
全長	1830 mm
全幅	750mm
全高	1100mm

項目	仕様
ホイールベース	1270mm
車両重量	131kg
タイヤ	前輪 110/70-12 後輪 120/70-12
使用燃料	レギュラー以上の無鉛ガソリン
バッテリー容量	12V8Ah(型番 9-BS)
点火プラグ	NGK CPR8EA-9

以上の仕様は実車を基準とします。

RACING S 125 シリーズ取扱説明書

台湾光陽工業股份有限公司

第 1 版-2016 年 9 月

無断複写、転載を禁じます

台湾にて印刷

「日本国内で販売する **KYMCO** 製品は
台湾で設計、製造、品質管理されています。」

KYMCO's products sold in Japan are all designed, manufactured, and quality
controlled in Taiwan.

